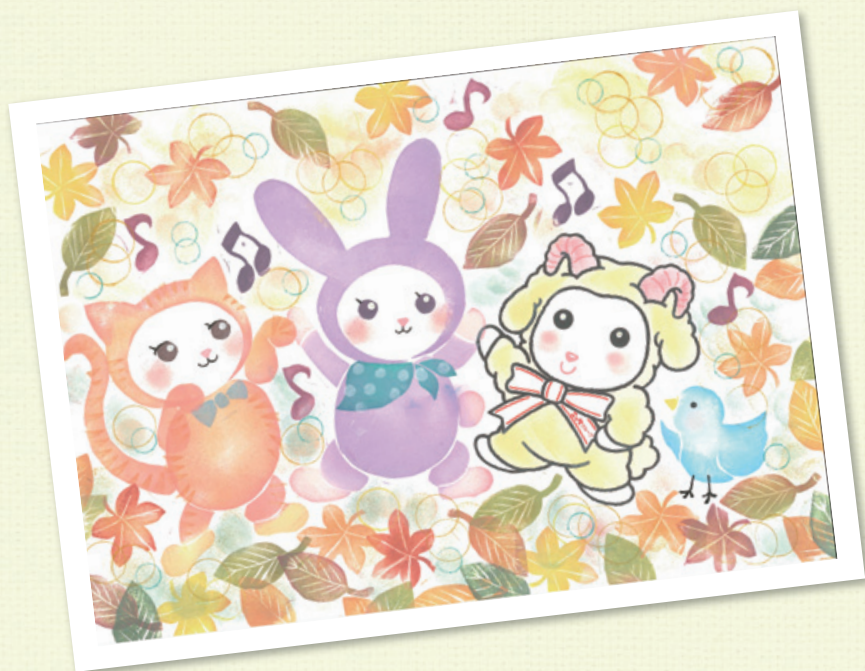


2015

ニッケグループ
環境データ集

“声”も明日につなげる



NIKKE.
Group

ニッケグループの概要



“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、
わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”
を経営理念に掲げて、4つの事業を「本業」と
位置づけて成長発展を目指します

ニッケは1896年の創業以来、ウールの総合メーカーとして高い評価を得てきました。
現在では繊維事業にとどまらない多角的な事業を展開し、ニッケグループを形成しています。
119年にわたって受け継がれてきた創業時のチャレンジ精神で、持続可能な成長を目指しています。



マスコットシープ「う～るん」
「ウール」の持つ「やさしく、あったかい」を表す
シンボルとして活躍しています。

会社概要

通称社名	ニッケ	代表者	取締役社長 佐藤 光由
社名	日本毛織株式会社	資本金	6,465百万円
所在地	大阪市中央区瓦町三丁目3番10号	売上高	連結 100,477百万円
設立	1896年(明治29年)12月3日	従業員	連結 5,143名
			※2014年11月現在

ニッケグループの事業別売上構成比(2014年度)

衣料繊維事業

42,299百万円(42%)

ウール(天然繊維)を主素材とした衣料用の素材・商品の開発・製造・卸売

(株)ナカヒロ、アカツキ商事(株)、佐藤産業(株)、南海ニッケヤーン(株)、大成毛織(株)、ニッケテキスタイル(株)、尾州ウール(株)、金屋ニット(株)、(株)キューテック、懿金化学繊維(株)、青島日毛織物有限公司、江陰日毛紡績有限公司、ニッケポートフィリップスカーリング、南海ニッケ・マレーシア、南海ニッケ・トレンガヌ

コンシューマー事業

23,802百万円(24%)

ブランディングとマーケティングのノウハウを強化した消費財の流通・小売/拠点開発による地域ニーズに対応した商品・サービスの提供

ニッケ商事(株)、双洋貿易(株)、(株)ニッケ物流、(株)友栄、(株)ジーシーシー、ニッケアウデオSAD(株)、(株)ツキネコ、(株)ニットーファミリー など

産業機材事業

19,701百万円(20%)

ウールから化繊、糸から紐・フェルト・不織布の開発・製造・卸売/産業用機器の設計・製造・販売/環境・エネルギーシステムの設計・施工・メンテナンス

(株)ニッケ機械製作所、アンビック(株)、日本フェルト工業(株)、江陰安碧克特種紡織品有限公司、安碧克(香港)有限公司、安碧克(上海)貿易有限公司、(株)ゴーセン、ホクレン(株)、上海高織制紐有限公司、ゴーセン・タイランド、ニッケ機械(タイランド)

人とみらい開発事業

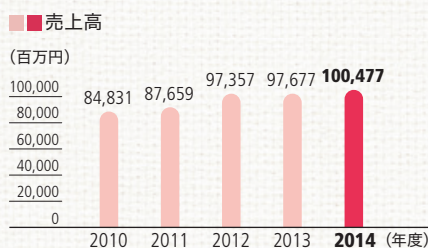
14,674百万円(15%)

「街づくり」を主眼とした地域共生型のサービス提供および不動産開発

ニッケ不動産(株)、(株)ニッケレジャーサービス、(株)ニッケインドアテニス、(株)ニッケ・ケアサービス



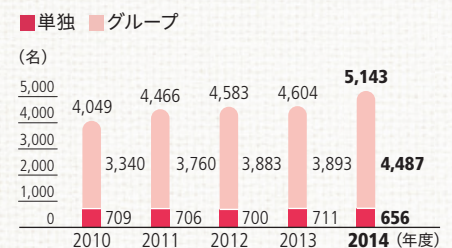
● 連結売上高



● 連結利益



● 従業員数



編集方針

本データ集は、ニッケグループの環境活動について、2014年度の取り組みと実績、今後の計画を報告するものです。環境パフォーマンスデータは、国内の衣料繊維製造部門・資材製造部門とショッピングセンター部門、オフィス部門を報告対象範囲としています。報告書またはデータ集の発行は本年度で11回目となります。また、冊子を廃止して当社のウェブサイトのみの掲載としています。

報告対象組織

● マネジメント・環境経営・環境保全活動・社会貢献活動
ニッケグループとしての取り組みと各社の活動を報告します。

● 環境パフォーマンスデータ

日本毛織株式会社

製造事業所(3カ所): 印南工場、一宮事業所、岐阜工場
オフィス(8カ所): 本社、神戸本店、東京支社、北海道営業所、仙台営業所、名古屋営業所、広島営業所、九州営業所
ショッピングセンター(2カ所): ニッケコルトンプラザ、ニッケパークタウン

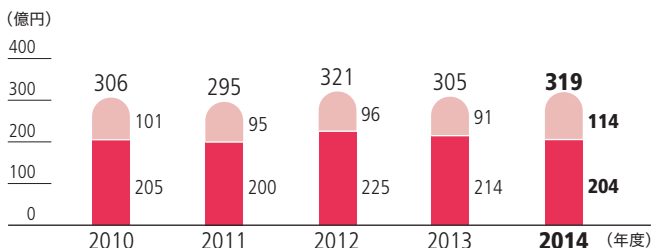
国内グループ会社(6社)

尾州ウール株式会社、大成毛織株式会社、金屋ニット株式会社、アンビック株式会社、株式会社ゴーセン、株式会社ツキネコ

連結対象組織における報告対象組織の補捉率は約60%です。これは国内エネルギーデータをもとに、事業規模から推測したのですが、補捉率の精度向上のため、今後、より広い範囲でエネルギーデータの収集に努めます。

● パフォーマンスデータにおける金額原単位の指標

■ ニッケ3事業所出荷額合計 ■ 国内グループ会社売上高合計※



※グループ会社売上高合計: 2010～2013年度は5社、2014年度は(株)ツキネコを加えた6社の合計値。

報告対象期間

2014年度(2013年12月1日～2014年11月30日)

期間中に発生した重要な変化

2013年12月1日付けで(株)ナカヒロの資材装品事業をアンビック(株)に事業譲渡したため、アンビック(株)の2014年度の売上高は増加しています。

発行日、前回発行日、次回発行日

発行日: 2015年2月25日
前回発行日: 2014年2月26日
次回発行予定: 2016年2月

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)

作成部署・連絡先

ニッケ 研究開発センター 環境・知財管理室
兵庫県加古川市米田町船頭440
Tel. 079-431-2106 Fax. 079-431-2070

主な企業情報

企業情報: 会社案内、有価証券報告書、ニッケレポート(事業報告書)、IR資料、環境データ集
主な企業情報に関するお問い合わせ先:
ニッケ 経営戦略センター 総務法務広報室
Tel. 06-6205-6600 Fax. 06-6205-6684
E-mail: webmaster@nikke.co.jp

企業情報に関するご意見・ご質問は、連絡先をお聞きした上で関係部署から返答いたします(返答は後日になる場合もあります)。

【ご注意】

2013年度以前のデータも見直し修正しましたので、昨年報告のデータと異なる数値があります。新しい情報は随時更新します。また、四捨五入しているため%数値が合わない場合があります。

【免責事項】

本報告書には、ニッケおよびニッケグループの将来に関する見通しも記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、将来の事業活動の結果とは異なったものになる可能性があります。

Contents

トップメッセージ 03
 マネジメント 04
 環境経営の取り組み 05
 国内製造部門での環境保全活動 08

ショッピングセンター部門での環境保全活動 19
 社会貢献活動 20
 ニッケグループ各社の取り組み 22
 環境報告ガイドライン対照表 27

トップメッセージ

「“声”を明日につなげる」を浸透させ グループ全体で地球環境保全に 取り組みます



ニッケは1896年の創業以来、環境にやさしい天然素材であるウールを社会に提供してきました。そして、“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”であることを経営理念に掲げて、人間家族や地域社会への貢献にも力を注いでいます。

「21世紀は環境の世紀」と言われ、持続可能な発展を考えると、地球温暖化の防止・循環型社会の構築・生物多様性の保全など環境保全は重要な活動となっています。かけがえない地球環境を健全な状態で次世代に引き継ぐことは、私たちに課せられた使命であり、責任であると考えています。

そのため、地球環境保全を企業経営における最優先課題と位置づけ、「ニッケグループ地球環境委員会」を組織して、省エネルギー・CO₂排出量の削減・廃棄物最終処分量の削減など5項目の数値目標を掲げてグループ全体で地球環境の保全に取り組んでいます。

本データ集は2014年度に推進したニッケグループの環境への取り組みについてまとめたものです。2014年度は、大規模太陽光発電所が全面開業したことで、グループとして約21MWの発電設備を順調に稼働させています。また、環境省の広域認定制度の認定を受けた着用済みユニフォームのリサイクルシステムも新たに構築しました。

2015年度は、NN120ビジョンの最終年度であり、「“声”を明日につなげる」のスローガンをさらに浸透させ、未来に繋がる環境保全に、社員一人ひとりが努力してまいります。

本データ集をご覧いただき、ニッケの取り組みを理解していただくとともに皆様からご意見、ご指摘をいただければ幸いです。

2015年2月

ニッケグループ代表
取締役社長

佐藤光由

経営理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループとして、わたしたちは
情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

- ウールで培った技術の追求と環境への配慮により、新しい価値を創造します。
- 心を込めて人間家族や地域社会に貢献し、たしかな生活文化を創造します。

経営方針

- 社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループを目指します。
- 企業価値の最大化を通して、顧客や株主との永続的な信頼関係を築きます。
- 研究開発を強化し、品質と感性・革新性に根ざしたNo.1の商品とサービスを提供します。
- 変化をチャンスと捉え、既存事業の改革と新規事業の開拓に挑戦します。
- 人材開発を重視し、各分野におけるプロフェッショナルとして行動します。

マネジメント

コーポレート・ガバナンス

ニッケは、経営の効率化、透明性を向上させ、ステークホルダーの期待に応えながら企業価値の増大を図ることをコーポレート・ガバナンスの基本方針としています。

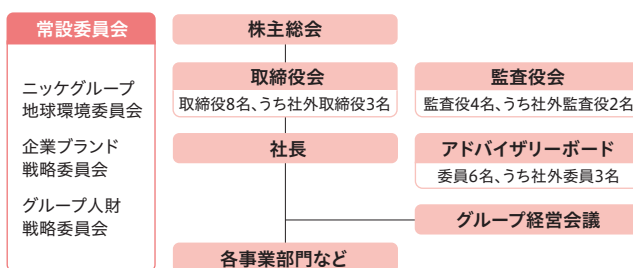
🍀 コーポレート・ガバナンス体制

ニッケは、取締役会および監査役会で業務執行を監督・監査する「監査役会設置会社」として、「経営監視の仕組み」と「最適な経営者を選定する仕組み」の構築に努めています。2004年にはアドバイザリーボード(社外有識者の会議体)を設置し、経営者の指名・報酬に関わる業務の確立と、ボードメンバーによる経営の監視およびアドバイスを取り入れる仕組みを導入しました。

また2006年には執行役員制度を導入し、経営の意思決定・監督機能と業務執行機能の分担を明確にし、業務執行機能の強化を図りました。そして取締役会をスリム化し、社外取締役を加えて透明性のある経営を推進しています。

さらに、業務執行機能の強化を図るために、執行役員・常勤監査役・各事業部門長およびグループ本社部門長などから構成されたグループ経営会議を開催しています。

🍀 コーポレート・ガバナンス体制



コンプライアンス・リスク管理

「ニッケグループリスク管理委員会」を中心に、ニッケグループの倫理・法令の徹底・遵守をはじめとして企業を取り巻くあらゆるリスクに対応しています。

🍀 コンプライアンス・リスク管理体制

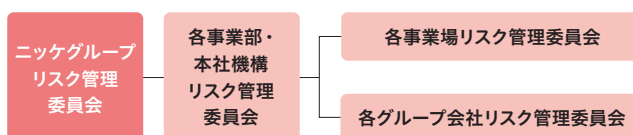
ニッケグループでは、2004年に「ニッケグループ企業倫理委員会」を設置しました。「企業倫理規範」と「企業行動基準」を制定するとともに、これらを記載した「企業倫理ハンドブック」を全社員に配布して徹底を図っています。

2008年12月には、「ニッケグループ企業倫理委員会」を「ニッケグループリスク管理委員会」に改組し、リスク管理上必要な重点テーマを設定して活動しています。

2011年度は、特に、東日本大震災を受けて、BCP(事業継

続計画)と大規模災害時の初動対応の見直しを実施しました。2014年度においても、報告すべき大きな法令違反や企業倫理問題は発生していません。

🍀 ニッケグループリスク管理委員会体制



🍀 内部通報者の保護

ニッケグループでは、「企業倫理規範」に関わる事柄で、職場内だけでは解決が難しい場合や、上司に相談することが必ずしも適切でない事項について、社員が相談できる窓口を「企業倫理ハンドブック」・社内イントラネットなどで

周知しています。

窓口は2つのルートを設け、相談者のプライバシーを厳重に守る体制としています。2014年度の利用は人間関係問題を中心として10件ありましたが、ほぼ円満に解決しています。

環境経営の取り組み

環境に関する基本姿勢

豊かな地球環境を次世代に引き継ぐために、地球環境保全を企業経営における優先課題と位置づけています。

ニッケグループ環境基本理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループとして、
わたしたちは情熱と誇りをもって
チャレンジして行きます。”

ニッケグループは、この経営理念のもと、「環境への配慮と高い企業倫理により社会から信頼される企業グループを指向すること」を環境基本方針としています。とりわけ地球環境の保全を重要な課題と捉え、豊かで住みよい社会の実現に向けた企業活動に努めるため、3つの行動方針と4つの重点施策を定めています。そして、研究開発から製造、技術、販売、流通に至るあらゆる分野において、グループ全従業員が積極的に環境保全活動に取り組んでいきます。

行動方針

- 環境保全活動の推進** CO₂排出量削減、省資源、環境負荷の低減にグループ全従業員で取り組みます。
- 環境マネジメントシステムの確立** ISO14001の認証を製造事業所3カ所およびグループ会社7社が取得しています。この環境マネジメントシステムを活用することで、継続可能な環境改善に努めます。
- 環境規制の遵守** 環境関連法規および環境保全協定などを遵守するとともに、排出基準に自主規制値を設定し、厳しい規制管理を図ります。

重点施策

- 環境配慮に対するグループ内の意識徹底
- CO₂排出量削減、省エネルギー、省資源、廃棄物3Rの推進
- 環境問題に対応した素材と生産技術の開発
- 環境関連情報の公開および地域社会との共生

環境マネジメント

「ニッケグループ地球環境委員会」のもと、「PDCAサイクル」を重視した環境マネジメントシステムを継続的に運用していくことによって、環境保全活動を推進しています。

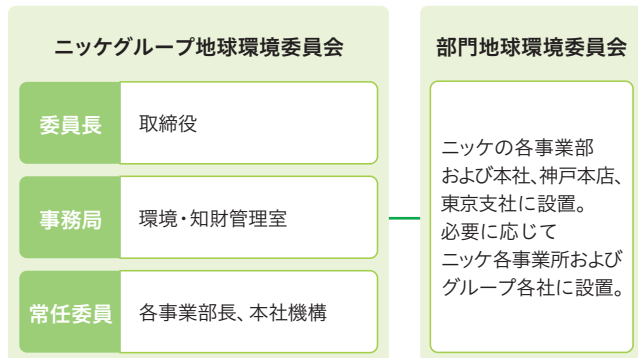
環境マネジメントシステム

ニッケグループでは、グループ各社が同じ目標のもとで、環境保全活動に取り組む体制を構築しています。「ニッケグループ地球環境委員会」を設けて基本方針と施策を決定するとともに、各事業部・本社・神戸本店・東京支社などに

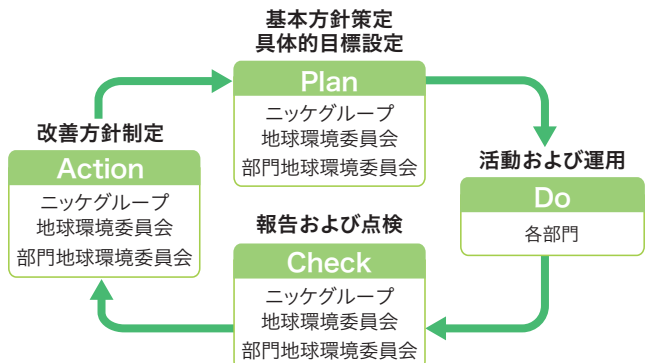
設置した部門地球環境委員会で具体的な計画を立案して実行する体制としています。

環境保全活動の推進にあたっては、下図のように“PDCAサイクル”を繰り返すことで活動の定着と強化を図っています。

● 環境マネジメント体制



● 環境保全活動推進フロー



環境経営の取り組み

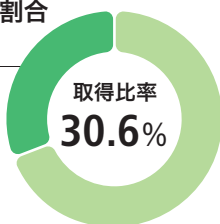
ISO14001 認証取得状況

ニッケグループでは、製造事業所3カ所およびグループ会社7社で、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001 認証を取得しています。

2014年度にISO14001の認証を取得したグループ会社はありません。

● ニッケグループ全社員に占める ISO14001認証取得事業所従業員の割合

認証取得従業員数:1,574名※
グループ従業員数:5,143名※
※非連結グループ会社を含む。



● ISO14001認証取得事業所一覧(2014年11月末時点)

事業所	登録年月	登録番号
印南工場	2000年11月	JMAQA-E156
アカツキ商事株式会社	2001年9月	JSAE419
岐阜工場	2001年10月	JMAQA-E234
アンビック株式会社	2001年11月	JQA-EM1898
佐藤産業株式会社	2001年11月	JEO129E
株式会社ナカヒコ	2002年6月	E465
上海高織制紐有限公司	2004年3月	01 104 031654
株式会社ニッケ機械製作所	2004年11月	3030786
株式会社ゴーセン	2005年4月	JQA-EM4701
一宮事業所	2007年12月	JMAQA-E724

環境会計

環境会計を導入し、環境保全の取り組みの把握に努めています。

環境対策投資は公害防止設備や省エネ・廃棄物減量設備への投資を集計したもので、下記データの通り年度により変動はしますが、中長期計画に掲げて継続的に取り組んでいます。

公害防止コストは年間管理計画の中で規定された大気・排水分析や機能維持のための保全費用を集計したものです。

● 環境会計データ

(千円)

	2010	2011	2012	2013	2014
環境対策投資額	191,123	135,959	123,496	3,471,461※	2,096,190
公害防止コスト	168,843	176,130	187,839	183,317	176,253
汚染負荷量賦課金	3,825	3,049	2,978	2,909	2,832

※ 2013年以降、ニッケまちなか発電所への投資額を含む。

環境教育

全社員を対象として毎年、環境教育を実施しています。

たとえば、印南工場では廃棄物削減・リサイクル率向上を推進しています。リサイクル率はすでに99%以上を達成していますが、さらに分別回収を徹底するため、2012年度から各職場の廃棄物担当者を対象に場内講習会を開催しています。施設担当者が講師を務め、廃棄物の区分やリサイクル方法を説明し、分別回収の重要性の意識を高めました。分別回収の意義・効果を理解し、地球環境保護・改善につながるよう努めています。

環境監査と結果

ISO14001 認証取得事業所では、年1回外部監査機関による審査を受けています。2014年度はニッケ3事業所合計で不適合0件、観察事項14件の指摘がありましたが、全体的には良好との評価を受けています。またニッケの3事業所で合計79名の内部監査員がおり、年1回、定期的に内部監査を実施しています。2014年度は不適合0件、観察事項14件が報告されました。

これら監査の結果については、マネジメントレビューで対策内容を確認・決定して、マニュアルや規定書を改訂する場合もあります。

環境リスク管理

ニッケでは、環境マネジメントシステムに基づき、環境に関する緊急事態として、汚水の流出、薬品・油剤の流出、PCBの流出、毒劇物の盗難、火災の発生、都市ガスの漏れなどを想定しており、事業所ごとにリスクを規定しています。

緊急時の対応手順は作業標準などに規定し、社員に徹底するとともに、定期的な訓練を実施しています。



印南工場 PCB流出時の対応訓練



一宮事業所 初期消火訓練

環境経営の取り組み

環境影響の監視・測定

ニッケグループでは、ボイラや排水処理設備など環境に影響を及ぼす設備について、環境測定機器の定期校正、ボイラ排ガスの測定、排水の分析などの日常点検および定期点検を実施しています。また、製造事業所3カ所と(株)ゴーセン天神工場では、所在する地域の排水水質規制を上まわる自主規制値を設定し、厳しく管理しています。

各事業所では、敷地の境界で騒音などを定期的に測定し、騒音が心配される場合は吸音材や遮音材を貼り付け、周辺の生活環境の保全に努めています。

法令遵守状況

2014年度においても、環境に関して官公庁から指導および罰則を受けておりません。なお、過去3年間も同様に重大な違反・罰則・訴訟はありません。

環境コミュニケーション

兵庫県加古川市のグループ企業と地域の皆様との相互理解を深めるために、年2回、周辺の町内会の代表と地域連絡会を開催しています。連絡会では地域の情報交換や各グループ企業の状況報告をするとともに、地域に根ざした企業グループとして地域をサポートできるような体制の構築に取り組んでいます。

また、印南工場と兵庫県、加古川市の間で環境保全協定を締結しています。加古川市内の8社の企業も同様に協定を締結しており、年1回、企業の事業所周辺住民の代表の方などを交えて協議会を開催し、事業所ごとに環境情報を報告しています。

生物多様性の保全

ユネスコの無形文化遺産にも指定されている雅楽の主旋律を奏でる筆^{ひちりま}筆^{るぜつ}には蘆古というリードが欠かせませんが、宮内庁の式部職楽部が唯一認定する原材料は鶴殿で採れるヨシです。

ニッケグループでは2013年2月より大阪府高槻市と鶴殿ヨシ活用促進連絡会に参画する鶴殿ヨシ原研究所が取り組む「鶴殿ヨシ原保全活動」に賛同し、これを支援しています。



鶴殿のヨシ原

環境に配慮した不動産開発

岐阜工場に2013年12月に完成した多目的新施設の建設にあたっては、土壌汚染調査・遺跡調査を実施し、土壌からは異常物質は検出されず、遺跡の埋蔵も確認されませんでした。建物にはLED照明や太陽光発電パネルを設置し省エネに配慮しています。また、印南工場の駐車場にも太陽光発電パネル計1,500枚を導入し、2014年12月から稼働しています。



岐阜工場の多目的新施設



印南工場駐車場の太陽光発電パネル

環境保全活動のあゆみ

1993	●「地球環境委員会」を設置
1997	●ビジネスユニフォームでの「エコマーク」第1号取得 ●PETボトルリサイクル繊維を使用した「エコロジア企画」商品を販売開始
1998	●ウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築
1999	●「環境自主行動計画」を策定 ●「地球環境保全中期計画」を策定開始
2000	●印南工場でISO14001を認証取得
2001	●岐阜工場でISO14001を認証取得 ●アンビック(株)でISO14001を認証取得 ●アカツキ商事(株)でISO14001を認証取得 ●佐藤産業(株)でISO14001を認証取得
2002	●(株)ナカヒロでISO14001を認証取得 ●印南工場にてNEDOとの共同研究で太陽光発電システムの実証実験を実施
2004	●(株)ニッケ機械製作所でISO14001認証取得 ●上海高織制紐有限公司でISO14001を認証取得
2005	●環境報告書発行開始 ●(株)ゴーセンでISO14001を認証取得
2007	●一宮事業所でISO14001を認証取得
2012	●太陽光発電システムの1号拠点を稼働(ニッケパークタウン) ●「環境データ集」として、冊子を廃止しウェブサイトのみに変更
2013	●鶴殿ヨシ原の保全活動のサポートを開始 ●ニッケまちなか発電所明石土山にて売電事業を開始
2014	●広域認定制度の認定取得 ●着用済みユニフォームのリサイクルシステム「エコシップ」の設立

国内製造部門での環境保全活動

環境保全中期計画

ニッケグループ国内製造部門は、2012年12月に策定した「環境保全計画(2015年度)」の達成に向けて全社が一丸となって各種施策に取り組みました。

2014年度の目標と実績

目的	内容	2014年度の目標	2014年度の実績	自己評価	2015年度の目標 (中長期目標)
省エネルギー	工場出荷額当たり原単位 2012年度比	98.0%以下	85.5%	🐻🐻🐻	97.0%以下
CO ₂ 排出量の削減	工場出荷額当たり原単位 2012年度比	98.0%以下	85.6%	🐻🐻🐻	97.0%以下
廃棄物最終処分量の削減	工場出荷額当たり原単位 2012年度比	98.0%以下	112.4%	✕	97.0%以下
PRTR法対象物質 使用量の削減 <small>※ 右記の年度は、行政への報告、 集計期間(4月～翌年3月)に対応</small>	工場出荷額当たり原単位 2011年度比	98.0%以下	99.6%	🐻	97.0%以下
グリーン購入の促進 <small>※ 製造事業所3カ所および本社・ 東京支社での取り組み</small>	グリーン購入該当品 購入比率	95.0%以上	94.6%	🐻	95.0%以上

自己評価の基準
 🐻🐻🐻 目標を十分に上まわって達成した
 🐻🐻 目標を達成した
 🐻 目標は達成できなかったが目標に近づいた
 ✕ 目標に向けた改善ができなかった

報告対象事業所

国内製造部門：■ 製造事業所(3カ所) ● オフィス(8カ所) ▲ 国内グループ会社(6社)

ショッピングセンター部門：◆ ショッピングセンター(2カ所)



国内製造部門での環境保全活動

環境負荷の全体像

原材料やエネルギーなどの投入(インプット)、CO₂や廃棄物などの排出(アウトプット)を把握し、可能な限り環境負荷を低減するように努めています。

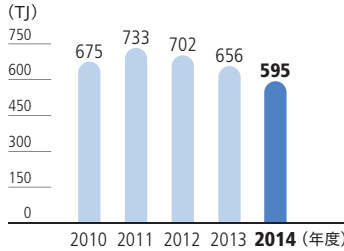
INPUT



エネルギー

電気 34,417MWh
都市ガス 6,051千m³
A重油 59kL

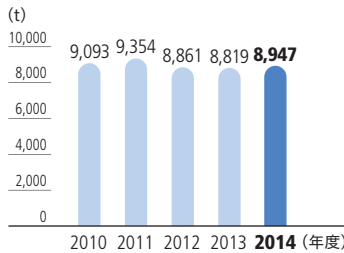
● 総エネルギー使用量



原材料

羊毛 3,178t
合成繊維 3,703t
染料・薬剤 2,066t

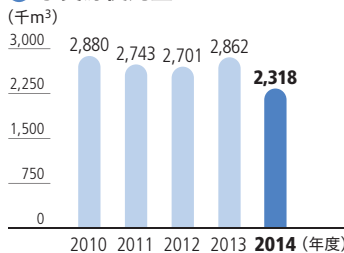
● 総物質投入量



水資源

上水 30.9千m³
工業用水 378千m³
地下水 1,909千m³

● 水資源使用量



調達

オーストラリア
などから羊毛を
調達

設計・商品開発

製造



染色

トップ染
糸の原料となる
トップを染色



紡績

精紡
精紡機で
糸にする



製織

織絨
織機で布に
織り上げる



整理

乾燥
洗浄して汚れを
落とし乾燥

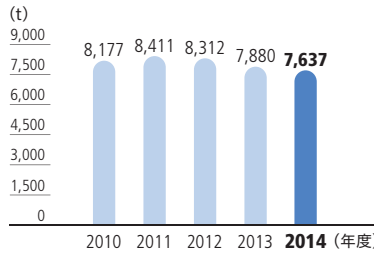


検査

検反
反物の品質を
厳しく検査

商品出荷量 7,637t

● 商品出荷量



流通

- 商社
- 販売店
- アパレルメーカー



ユーザー

- 個人
- 学校
- 企業
- 官公庁

リサイクル

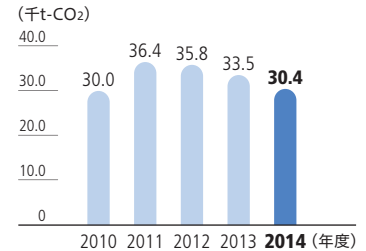
OUTPUT



大気への排出

CO₂ 30.4千t-CO₂
SO_x 0.04t
NO_x 5.00t
ばいじん 0.128t

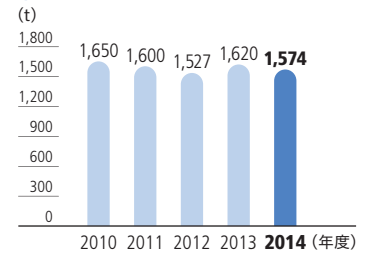
● CO₂排出量



リサイクルと廃棄

廃棄物発生量 1,574t
リサイクル量 1,274t
最終処分量 301t

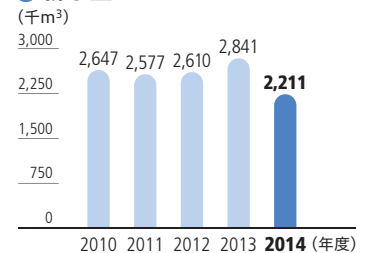
● 廃棄物発生量



水系への排出

排水量 2,211千m³
COD負荷量 32.1t
BOD負荷量 16.6t
SS負荷量 13.3t

● 排水量



国内製造部門での環境保全活動

地球温暖化防止の取り組み

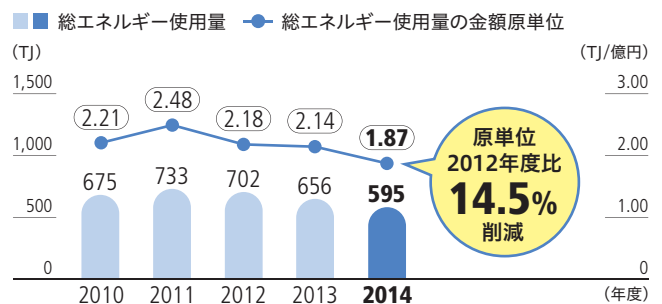
省エネ型生産設備の活用などの諸施策を実行し、エネルギー原単位とCO₂排出量原単位の改善に取り組みました。今後は、省エネ型設備の積極的な導入や工程管理条件の見直しなどに取り組んでいきます。

省エネルギー活動の推進

総エネルギー使用量原単位は「2012年度比98.0%以下」の目標に対して、実績は「85.5%」と目標を達成できました。この主な要因は、照明機器のLED化、設備の老朽化対策などエネルギー使用削減に取り組んだことです。省エネ会議や省エネパトロールなど、社員の省エネ意識を高めるための啓蒙活動も継続しています。

夏期の電力ひっ迫期間には、冷房の設定温度を1℃上げるほか、デマンド制御設備を活用し、各事業所で想定している最大使用電力を超えそうなときには、空調設備を停止するなど、地道な取り組みを重ねました。これによって、社員の省エネに対する意識は格段に向上しました。

総エネルギー使用量と原単位



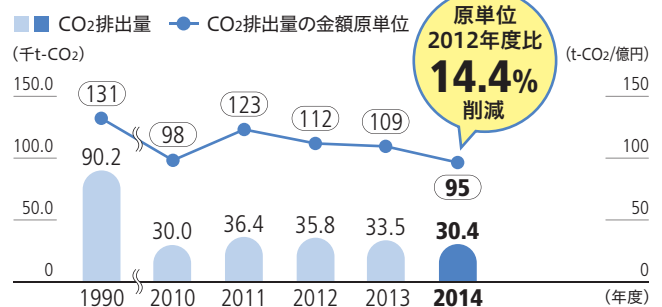
温室効果ガス排出量の削減

CO₂排出量原単位は「2012年度比98.0%以下」の目標に対して、実績は「85.6%」と目標を達成できました。

この主な要因は、各製造事業所での省エネ対策により総エネルギー使用量原単位を削減できたためです。

CO₂排出量は、京都議定書が定める基準年1990年と比べて国内製造部門では66.3%減、ショッピングセンター部門を加えると54.5%減となりました。

CO₂排出量と原単位



注) CO₂排出係数は、2014年度の係数が未発表のため、2014年度実績の算出には2013年度の係数を使用しています。また、2013年度実績は、2013年度の係数が発表されたため修正し、昨年報告したデータと数値が異なります。

輸送でのCO₂排出量の削減

ニッケグループでは輸送効率を向上させる取り組みを推進しています。

出荷製品や原材料の輸送距離を短縮するとともに、効率よい輸送でトラック便数を減少させるなどの取り組みに努めています。

(株)ニッケ物流は、2012年12月にGマーク認定を受けました(Gマーク認定はトラック運送事業者の安全性を評価・

認定する制度です)。

2013年8月からは、グリーン・エコプロジェクトに取り組んでいます。エコドライブを推進し、CO₂排出量の削減に努めています。

今後は、グリーン・エコプロジェクトの取り組みをさらに強化していきます。

国内製造部門での環境保全活動

省資源・リサイクルの取り組み

高リサイクル率を維持しつつ、廃棄物発生量を減らす取り組みをしています。

総物質投入量の低減

製造部門の主な原材料には、ウールを中心とした天然繊維、ポリエステルを中心とした合成繊維、染料・薬剤があります。

これら原材料の投入量を低減させるために、製造工程では歩留まりを高く維持することや不良率低減に継続的に取り組んでいます。

物質の循環利用

製造過程で発生する篠くずや短い毛などの副産物を、紡毛原料としてほぼ100%再利用するシステムを確立しています。

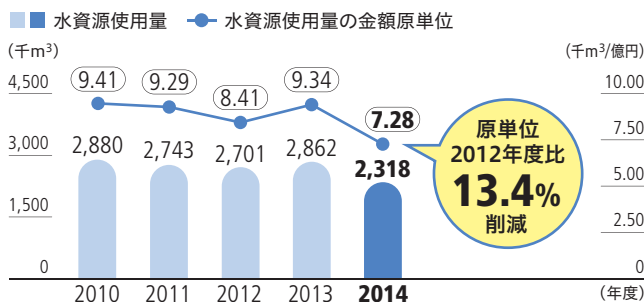
また、セーターや手編み糸などを包装する包装材の使用量は年間約4.2トンで、これら容器包装材は(公財)日本容器包装リサイクル協会に委託して、リサイクル(再商品化)しています。

水資源使用量の削減

使用する水資源には上水・工業用水・地下水があります。2014年度の水資源使用量は2012年度比で14.2%減少し、原単位は13.4%削減しました。

この主な要因は、老朽化した用水配管の補修を行ったことです。今後も、配管システムの点検・改修、節水対策を推進し、水資源使用量の削減に努めます。

水資源使用量と原単位

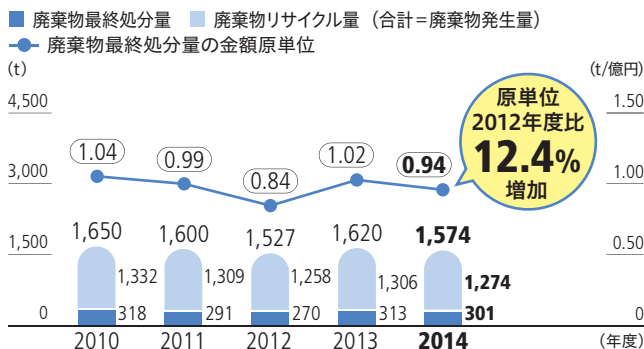


廃棄物の削減

廃棄物最終処分量原単位は「2012年度比98.0%以下」の目標に対して、実績は「112.4%」と大幅に増加しました。

これは、2014年度にアンビック(株)にて、生産ラインの再編を行い、老朽化した生産設備を廃棄物として処分したことが原因です。アンビック(株)の生産ラインの再編は、2015年度も継続するため、2016年度以降は、廃棄物処分量は減少する見込みです。

廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量と原単位



国内製造部門での環境保全活動

化学物質の削減と管理

PRTR法※対象物質の使用量が多い薬剤から対象物質を全く含有しない物質への切り替えをほぼ終了し、さらに少量使用している物質においても、試験を進めて切り替えていきます。

※PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。

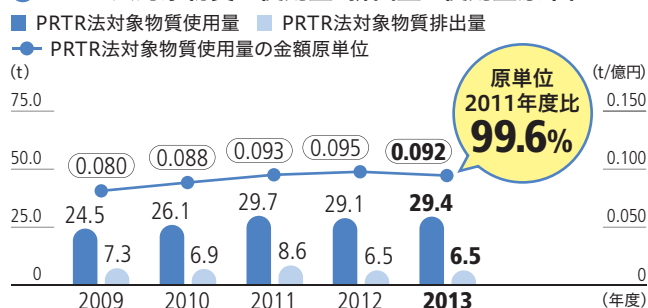
化学物質の削減と管理

PRTR法対象物質を含有する化学物質の中で、比較的使用量が多いものから優先的に、PRTR法対象物質を全く含有しないものに切り替えましたが、PRTR法対象物質の使用量原単位は、「2011年度比98.0%以下」とした目標に対して、実績は「99.6%」と目標を達成できませんでした。

これはPRTR法対象物質を使用するものの生産割合が増加したことによります。

今後も、PRTR法対象物質を含有する化学物質に対して、対象物質を全く含有しないものへの切り替えに向けた研究を進めていきます。

● PRTR法対象物質の使用量・排出量と使用量原単位



注) PRTR法の届け出については、事業者は個別事業所ごとに化学物質の排出量・移動量を把握し、繊維産業においては都道府県経由で経済産業省に届け出ています。その集計期間は4月から翌年3月までと定められており、上記グラフの年度も、この集計期間に準じているためニッケの報告期間とは異なります。

PCB使用廃電気機器の適正管理

ニッケグループでは、国の全額出資によって設立された特殊会社「中間貯蔵・環境安全事業株式会社」にグループ全体で13台のPCB使用廃電気機器を処理登録しており、現在、処理順番を待っている状況です。処理が実施されるまでは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って、適正に保管しています。

また、数mg/kg～数十mg/kgのPCBが混入した微量PCB汚染廃電気機器の問題については、製造年などから混入の可能性のある機器を特定し、絶縁油のPCB分析により汚染の有無を確認する作業を行っています。汚染が確認された機器は計画的に更新し、微量PCB汚染廃電気機器として適正に保管・処分します。

ダイオキシン類

ニッケグループでは、ダイオキシン類対策特別措置法で定められた特定施設は設置していません。

国内製造部門での環境保全活動

大気や水などの汚染防止

大気汚染や水質汚濁などの公害対策については、特に周辺住民の方に迷惑をかけないように、確実に公害防止設備の定期保全を実施し、排ガスや排水水質の定期分析および管理を継続しています。

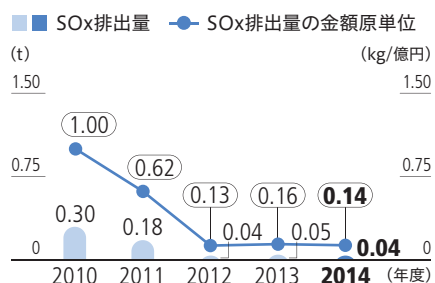
大気汚染物質の削減

ニッケグループから排出されるSOx・NOx・ばいじんはボイラの排ガスに含まれるもので、特にSOxの排出はボイラ燃料に起因します。ニッケ印南工場、一宮事業所、岐阜工場、アンビック(株)、(株)ゴーセンは、天然ガスなどを燃料とする

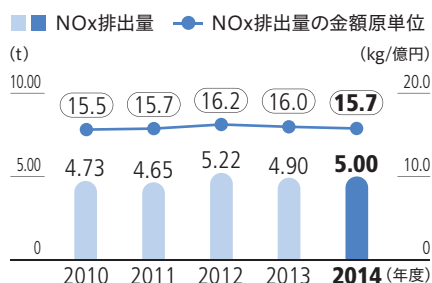
ボイラを使用しており、SOx排出量をゼロにしています。

またNOx・ばいじんは「大気汚染防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を十分に下まわるよう管理しています。

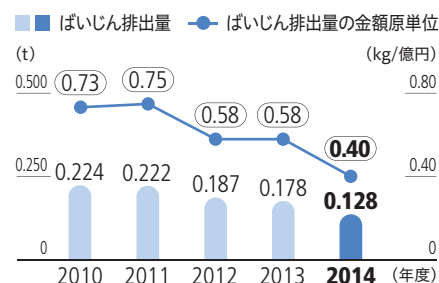
SOx排出量と原単位



NOx排出量と原単位



ばいじん排出量と原単位

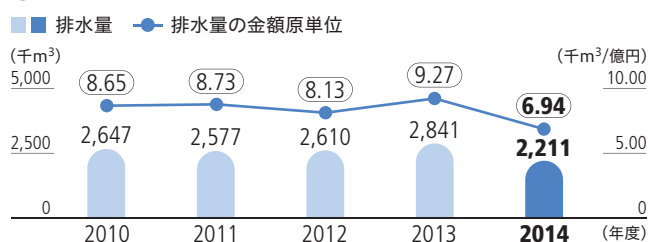


排水の管理

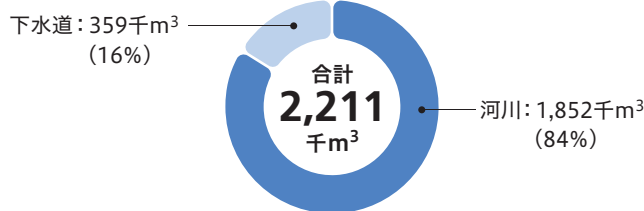
工場排水に含まれるCOD負荷・BOD負荷・SS負荷は、自社の排水処理装置または公共の下水処理場でこれら負荷量を減少させた上で、河川などの公共水域に放流しています。

各工場では定期保全の確実な実施に加え、日常的な管理運用、上乘せ排水基準の設定、排水水質の定期分析などを通じて、「水質汚濁防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を下まわるように管理しています。

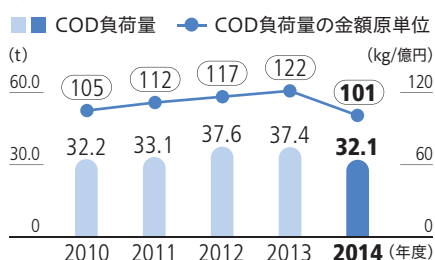
排水量と原単位



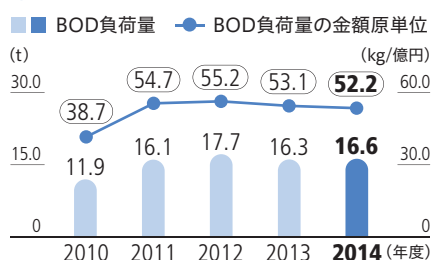
排水の排出先別内訳(2014年度)



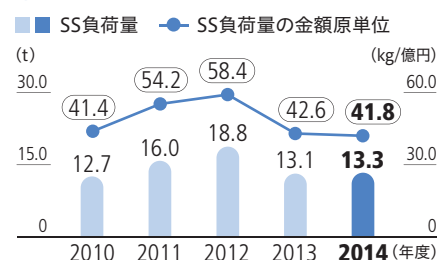
COD負荷量と原単位



BOD負荷量と原単位



SS負荷量と原単位



国内製造部門での環境保全活動

環境に配慮した商品

ニッケグループは、人と地球にやさしい素材であるウールを主原料としたさまざまな商品を製造・販売するほか、環境に配慮した素材の開発、再生繊維の使用、衣料品リサイクルの推進などに取り組んでいます。

ニッケ



ウールが持つ調湿効果をさらに高めて 四季を通じて衣服内を快適な状態に保つ

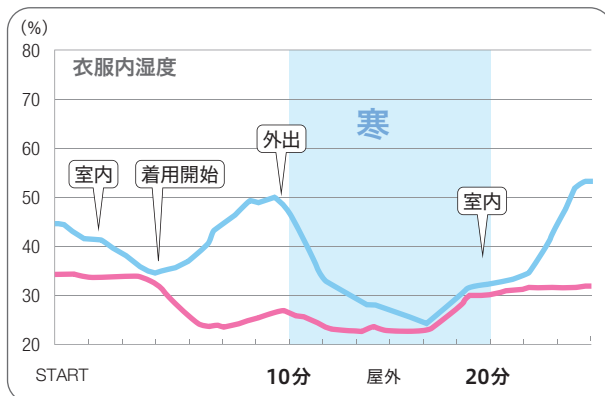
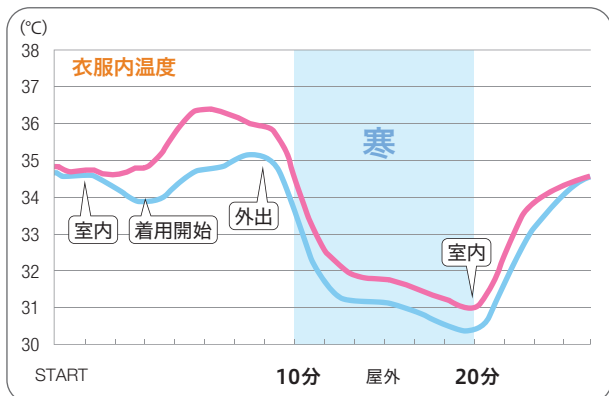
衣服内の温度と湿度をコントロールし、一年中、快適な着心地を実現するのが新しい調湿調湿素材HYBRID THERMOです。ウールが持つ調湿効果をさらに高めて適度な湿度に保つとともに、外気温の変化の影響を最小限に抑えます。

寒い時期には発熱・保温効果により暖かさを持続、暑い季節には衣服内の湿度を低くさわやかに保ち、温度を下げて快適な状態に近づけます。

HYBRID THERMOの調湿調湿パフォーマンステスト結果

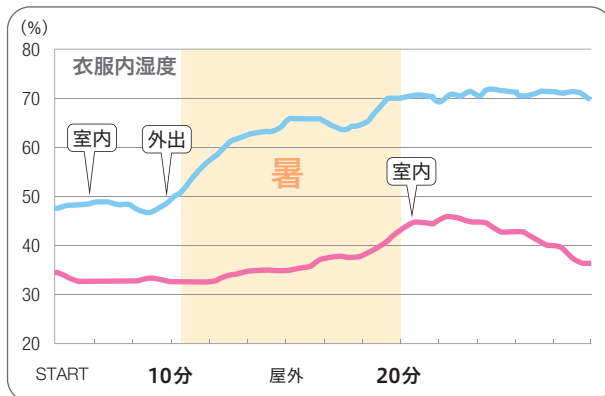
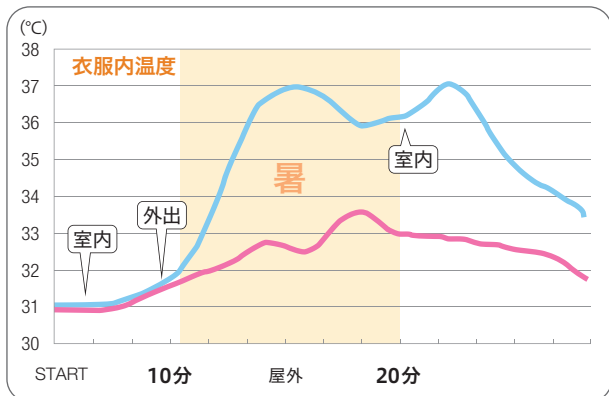
● 衣服内気候の変化(冬) 環境: 室内温度25°C 湿度50% / 屋外温度18°C 湿度40%

— ハイブリッドサーモ
— 市販調湿素材



● 衣服内気候の変化(夏) 環境: 室内温度27°C 湿度50% / 屋外温度33°C 湿度65%

— ハイブリッドサーモ
— 市販調湿素材



国内製造部門での環境保全活動 環境に配慮した商品

ゴーセン

モーター結束紐

環境対応自動車の心臓部を支える

(株)ゴーセンでは、以前より環境対応自動車向けにモーター結束紐を製造・販売しています。

排出ガス規制や環境意識の高まり、燃費向上などの点から、環境対応自動車(HV、EV、FCV)は年々増加する傾向にあります。(株)ゴーセンのモーター結束紐はこれら環境対応自動車を支える部材として、耐侯性、コスト面で優位にあります。日本の自動車メーカーのみならず世界の自動車メーカーの採用が増えており、2014年には燃料電池自動車に、そして2015年にはアメリカ大手メーカーの電気自動車に採用が決定しました。



アンビック

アンビック(株)では、原料から製造、使用、廃棄に至る商品のライフサイクル全体で、環境への負荷が少なくなるよう考慮しています。新商品の開発・設計や、原材料・工程など既存品を著しく改善する際の設計段階において、ISO14001に基づいて定めた製品アセスメント規定と、

製品アセスメントチェックリストに従って、新商品・改良品の環境影響を評価しています。

また、フェルト商品の開発・製造にあたっては、ニッケで副産物として発生する羊毛を利用しており、資源の有効利用に努めています。

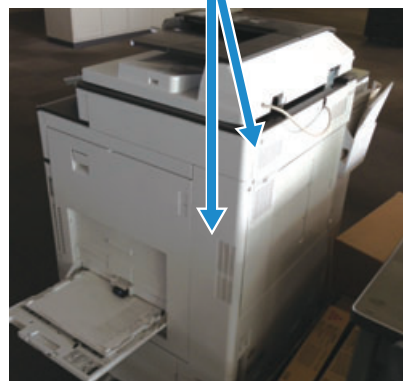
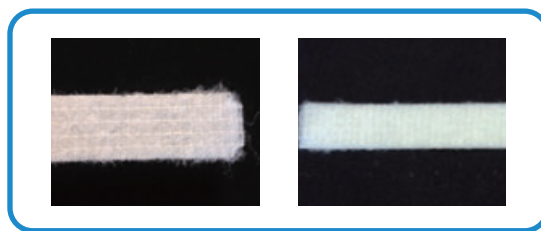
トナーフィルター

SPM(浮遊粒子状物質)の漏洩を防止して 快適なオフィス空間づくりに貢献

主にオフィスで使用される、複写機・プリンタはトナーという粉体を高温の熱ロールで溶かし、紙に定着させることで印刷を完成させています。トナーは直径5~8μm程度の粒子であり、大気中に放出するとSPM(浮遊粒子状物質)になってしまいます。

複写機・プリンタにセットされているトナーは100%使用されず、使い切れなかったトナーは回収されることとなりますが、その前後でトナーを外部に漏らさないようにするためのフィルターとして、機械に備わっているのが『トナーフィルター』です。

アンビック(株)では、複写機・プリンタからトナーの漏洩を防止するフィルターとして低圧損で高効率という特徴を持った『トナーフィルター』を開発し、快適なオフィス空間づくりに貢献しています。



国内製造部門での環境保全活動 環境に配慮した商品

再生繊維を用いた「エコロジア企画」

ニッケと帝人(株)、日清紡績(株)(現日清紡ホールディングス(株))の3社は、共同でトライアングルプロジェクトを構築し、その企画のひとつとして、1997年に使用済みPETボトルを繊維に再生し使用する「エコロジア企画」を立ち上げました。

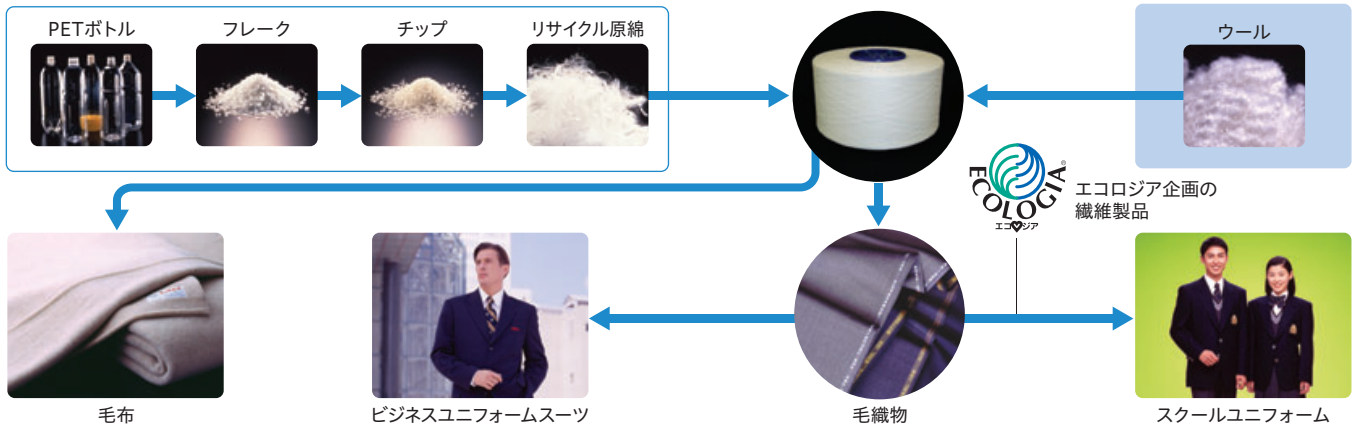
これは、ゴミを減らすばかりではなく、合成繊維の主原料である石油の消費抑制にも役立つ地球にやさしい環境保全活動のひとつです。ニッケグループでは、再生されたポリエステル繊維とウールを混紡し、ユニフォームなどの商品へと加工して、再び社会へ送り出しています。

エコマーク取得商品

エコマークは、生産から廃棄にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品・サービスに付けられる環境ラベルです。マークの使用については、(公財)日本環境協会エコマーク事務局が管理しています。

商品類型ごとに設定されている厳しい認定基準を満たした商品のみエコマーク表示が許諾され、ニッケのエコマーク取得商品には、学生服用生地、ビジネスユニフォーム用生地、毛布などがあります。

● エコロジア企画の仕組み



「エコネットワーク」製品リサイクルシステム

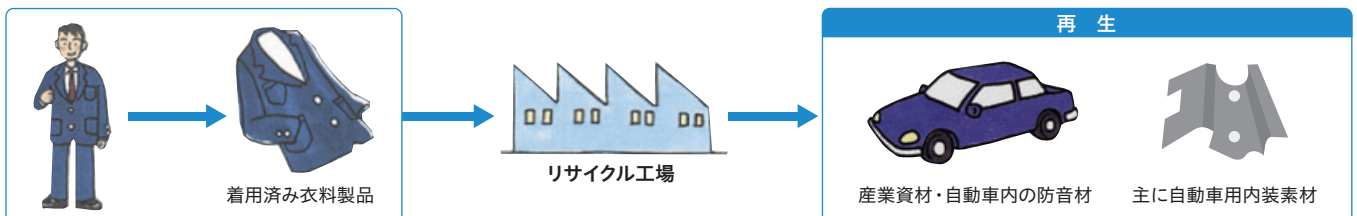
限りある資源を大切に使い地球環境を保全することは、現代社会を生きる私たちに課せられた義務であり責任です。繊維業界においても、商品回収・再生に向けた意識が高まっています。

素材のリサイクルによって、地球環境への負荷を減らすため、ニッケと(株)ダイドーリミテッド、大東紡績(株)の3社は、1998年に共同でウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築しました。

「エコネットワーク」の回収商品は、ウール100%と、ウールと他繊維の複合素材による衣料製品(メンズスーツなどの一般衣料、スクールユニフォーム、ビジネスユニフォームなど)を対象としています。

「エコネットワーク」会員からの着用済み衣料は、専用袋で指定のリサイクル工場へ回収しています。これらの回収商品を産業資材などとして再生し利用することで、原材料の節減と廃棄物の減量を両立します。

● エコネットワークの仕組み



国内製造部門での環境保全活動 環境に配慮した商品

広域認定制度の認定を受けて、着用済みユニフォームをリサイクルする「エコシップ」

2014年7月、日本毛織(株)・(株)ナカヒロ・アカツキ商事(株)・佐藤産業(株)のニッケグループ4社は、環境省の広域認定制度の認定を取得し、9月に「エコシップ(ecoship)」を設立しました。

認定を受けたecoship会員企業4社が製造し、産業廃棄物となった着用済みユニフォームの回収・リサイクルに努め、廃棄物の削減と資源の有効活用を推進していきます。

広域認定制度 認定番号 第239号

広域認定制度とは

廃棄物の処理及び清掃に関する法律(略称 廃棄物処理法)の第15条4の3に基づく廃棄物の広域的処理に係る特例制度。

特例制度とは

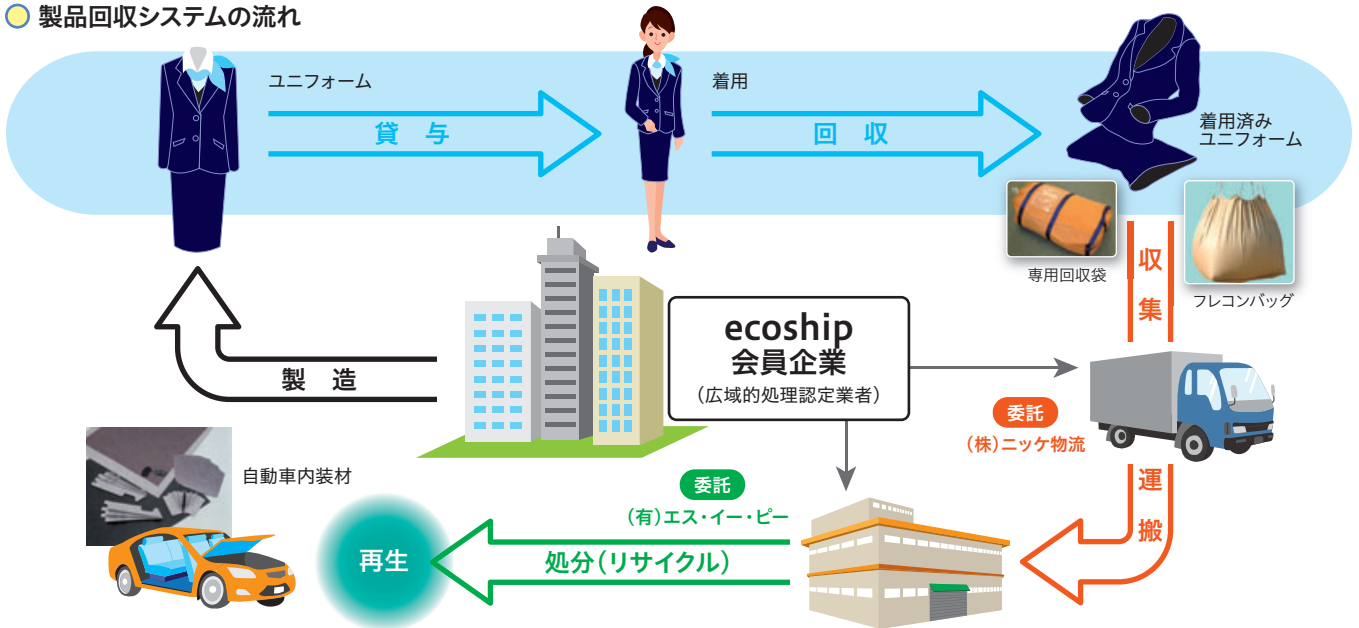
産業廃棄物を収集し、運搬し、処分するためには、地方公共団体ごとの廃棄物処理業の許可が必要である。

特例制度は、廃棄物の減量その他その適正な処理の確保に資する広域的な処理を行う者として環境大臣の認定を受けると、認定を受けた範囲内で廃棄物処理業の許可が不要となる制度である。

認定の範囲

- ・ecoshipの会員企業が製造した、ポリエステルやナイロンなどの合成繊維または合成樹脂が含まれるユニフォーム。
- ・ユーザー様が従業員へ貸与し、着用後に回収したものの。
- ・会員企業(広域的処理認定業者)4社……………日本毛織株式会社、株式会社ナカヒロ、アカツキ商事株式会社、佐藤産業株式会社
- ・委託を受けて収集・運搬を行うもの1社……………株式会社ニッケ物流(愛知県一宮市今伊勢町本神戸字河原1 ニッケ一宮事業所内)
- ・委託を受けて処分を行うもの1社……………有限会社エス・イー・ピー(施設の所在地:静岡県菊川市本所2281-3)

● 製品回収システムの流れ



契約 会員企業とユーザー様

- ・ecoship(広域認定制度)を利用する契約をする。
- ・収集方法を取り決めて回収袋を貸与する。
- ①トラック運転手が手作業で積む(20kg専用回収袋を貸与)
- ②ユーザー様所有のフォークリフトでトラックに積む(500kg回収袋:フレコンバッグを貸与)

回収 ユーザー様

- ・着用済みユニフォームを回収し、貸与された回収袋に詰める。

収集及び運搬の依頼 ユーザー様から会員企業へ

- ・回収量、収集時期(範囲を設定)を連絡する。

収集及び運搬の要請 会員企業からニッケ物流へ

- ・ユーザー様名、収集場所、回収量を伝える。
- ・収集時期を連絡し、ニッケ物流の都合と照らして収集日を決める。
- ・ニッケ物流が費用の見積書を作成し、会員企業と合意する。

マニフェスト発行 会員企業からリサイクル情報センターへ

- ・会員企業がリサイクル情報センターへ、ユーザー様名、収集場所、回収量、回収日を連絡する。
- ・リサイクル情報センター(エコシップ事務局)は、マニフェストを作成しニッケ物流へ渡す。

収集・運搬 ニッケ物流

- ・取り決めた収集日・時間にユーザー様へ収集に行く。
- ・トラックに、法令で定められた表示をする。(広域認定制度に基づく産業廃棄物収集運搬車両認定番号第239号株式会社ニッケ物流)
- ・トラックに、認定証の写しを備え付ける。
- ・トラックに、運搬先事業場である有限会社エス・イー・ピーの名称、所在地、連絡先を記載した書面を備え付ける。
- ・マニフェストを必ず携行する。

処分 エス・イー・ピー

- ・ニッケ物流により運ばれた着用済みユニフォームを分別・手解体等し、反毛フェルト原料として自動車内装材メーカーに販売する。

国内製造部門での環境保全活動

グリーン購入の取り組み

ニッケは1998年に「グリーン購入ネットワーク」に加入し、環境負荷の少ない商品やサービスを優先して購入するグリーン購入の取り組みを促進しています。

グリーン購入の促進

ニッケ独自のグリーン購入基準の該当品購入比率は「95.0%以上」という目標に対して「94.6%」と目標未達でした。ペーパーレス化によって該当品比率の高い事務用紙の購入量が減少したこと、また、文具類では、レーザープリンタ用トナーの非該当品の割合が高いことが上げられます。

今後、比率を上げることは難しい状況ですが、購買品・調達先を見直すことで改善していきます。

● グリーン購入該当品購入比率 (%)

	2010	2011	2012	2013	2014
紙類	98.1	95.6	95.7	90.8	92.5
文具類	71.4	75.2	73.4	70.2	71.5
機器類	98.6	99.8	96.4	99.6	70.8
OA機器	100.0	100.0	99.9	99.9	99.9
照明 照明器具	100.0	99.2	100.0	96.5	99.9
照明 蛍光灯	99.3	94.5	94.9	86.4	98.3
合計	92.8	94.2	95.0	93.5	94.6

オフィスでの取り組み

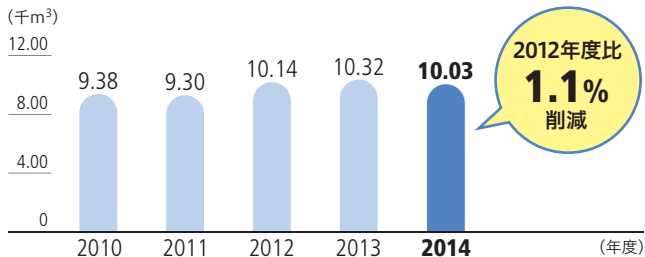
ニッケの本社、神戸本店、東京支社および北海道、仙台、名古屋、広島、九州の各営業所のオフィス部門での環境データを集計して報告しています。

オフィスにおける環境保全

空調温度の徹底管理や、こまめな消灯、エレベーター使用の削減など、社員への周知を徹底することで、電気使用量の削減に取り組んでいます。2014年度は、本社ビルの3つのフロアで空調設備を省エネ型へ更新、本社内に設置していたサーバー等の機器を外部のデータセンターへ移設しました。その結果、2012年度比3.6%削減することができました。

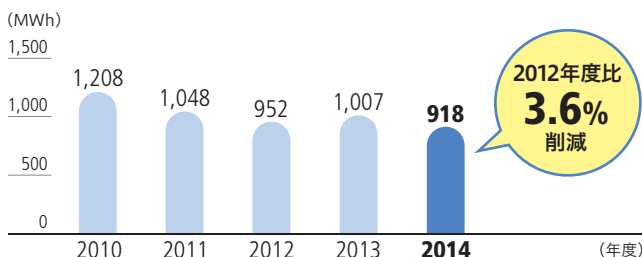
今後も計画的な空調設備の更新、省エネ対策を推進します。

● オフィスでの水道使用量

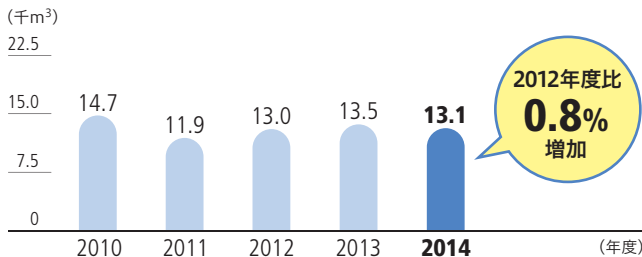


水道使用について各個人に節水をPRし、水漏れ箇所についても迅速に修理対応することで、2012年度比1.1%削減することができました。

● オフィスでの電気使用量



● オフィスでのガス使用量



ガス使用量は、2013年度に本社ビルの厨房機器を更新しガス使用量削減を図りましたが、2014年度に神戸本店のテナント増加により、空調機器で使用するガス使用量が増加しました。

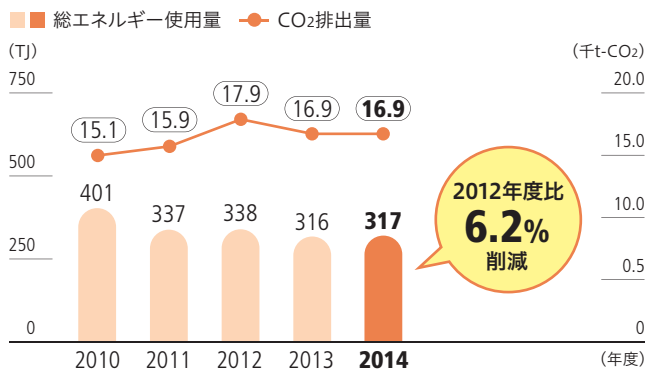
ショッピングセンター部門での環境保全活動

ショッピングセンター運営での取り組み

ニッケは国内2カ所(千葉県・兵庫県)で大規模なショッピングセンターを運営しています。環境負荷を低減するため設備を改善するとともに、地域の皆様を対象に、エコの大切さをお伝えする活動に協力しています。

ショッピングセンターでの環境保全

ショッピングセンターでの総エネルギー使用量・CO₂排出量



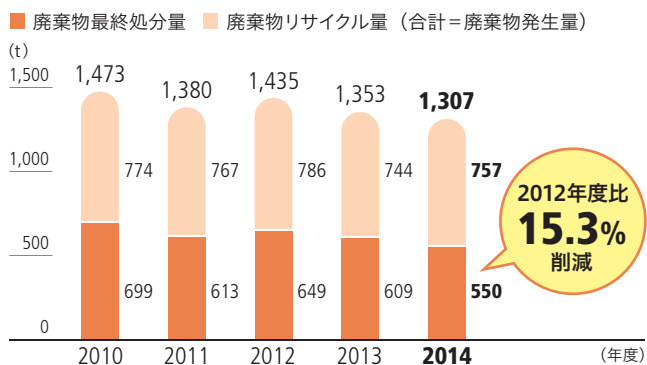
ショッピングセンターで使用している蛍光灯、水銀灯をLED照明へ変更、空調送風機の送風量を下げることによって、使用電力の削減を図りました。

また、ガラス窓の緑のカーテンや空調室外機への散水、屋上散水・屋上緑化などに取り組んでいます。



空調室外機への散水

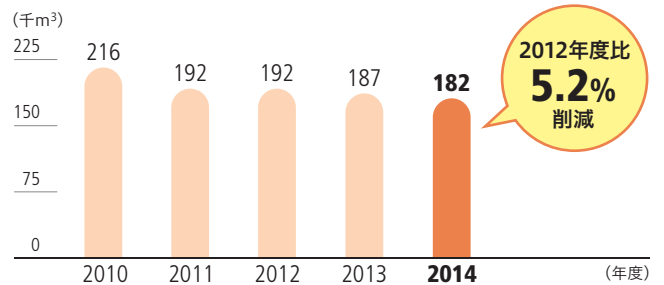
ショッピングセンターでの廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



テナントから発生する段ボール、雑誌、紙の分別徹底によりリサイクル量を増やし、廃棄物最終処分量の減量に取り組んでいます。

剪定くずによるピオネスト(木の葉や枝を積み重ねてつくる昆虫や小動物のすみか)づくりや落ち葉のコンポスト化(堆肥化)にも取り組み、手造りの庭で再利用しています。

ショッピングセンターでの用水量



施設内のトイレ、洗面所には節水型の機器を導入し、水使用量の削減に努めています。

地域への情報発信・啓発活動

ニッケコルトンプラザ

地域の皆様を対象とする、緑化や省エネなどの啓発活動に協力しています。ニッケコルトンプラザがある千葉縣市川市では、毎年7月7日に「クールアースいちかわ」と題して午後8:00~午後10:00にライトダウン(節電)を呼びかけています。ニッケコルトンプラザでも外部看板のライトダウンを実施しました。また、(公財)市川市花と緑のまちづくり財団が主催する楽しみながら緑化を進めることを目的とした「素敵なガーデニング講座」をコルトンホールで開催しています。



「クールアースいちかわ」

ニッケパークタウン

加古川市内の幼稚園や小学生が描いた環境ポスター展や、防火ポスター展を開催するにあたり、3階のギャラリーを無料で開放しています。毎回多くの地域の皆様に鑑賞していただいています。



ギャラリーでのポスター展

社会貢献活動

社会・地域への貢献活動

ニッケグループでは国内各所に製造拠点、事業所、ショッピングセンターなどを展開しており、地域行事への参加・協賛や工場見学の実施など、積極的な地域貢献活動の推進を心がけています。また、「グループ企業と地域社会の密接な関係」を強化するため、グループ事業場の多い兵庫県加古川市と愛知県一宮市に地域事務所を設置しています。

“シープレース・ニッケ杯”に特別協賛

昨年好評につき、2014年も10月26日(日)に開催された六甲山牧場“シープレース・ニッケ杯”に特別協賛しました。六甲山牧場は、2013年10月から「ニッケまちなか発電所 明石土山」でニッケグループのPRと除草に活躍している羊たちの故郷でもあります。

レース当日は晴天に恵まれ、たくさんのお客様にご来場いただきました。ニッケグループのPRとして、レース開始前にニッケグループの事業紹介をするほか、今年はニッケグループマスコット「う～るん」と同様のNIKKE Groupロゴ入りスカーフを出走の羊に着用しました。

レースでは、1周150mを5頭の羊が走り1着を予想、1着を当てた方に協賛品の「う～るんマスコットシープ」をプレゼントしました。昨年の531名を上まわる646名に参加いただき、122名の方が1着を的中されました。

レース本番、途中で立ち止まる羊や羊を追いたてる牧羊犬に観戦者は笑い、声援し、最後には歓声も上がり、大いに楽しんでいただけました。これからも、ニッケグループの認知度向上を目指していきます。



第26回「加古川マラソン大会」に特別協賛

兵庫県加古川市にて2014年12月23日(火・祝)に開催された「第26回加古川マラソン大会」に特別協賛しました。

加古川マラソン大会は、加古川市が「水と緑と風! 今年のラストランは加古川で!!」をテーマに市民参加型のイベントとして開催した大会で、当日の天候は晴れ、5,639名という過去最多のランナーが、師走の加古川をさっそうと駆け抜けました。

また、招待選手として、2014年10月に韓国・仁川で開催されたアジア競技大会で2位、3月の名古屋ウィメンズマラソンで3位に入賞された木崎良子選手(ダイハツ工業所属)が

ファミリー2kmと10kmの部に出場。ゲストランナーとして和泉修氏、高山トモヒロ氏(ともによもとクリエイティブ・エージェンシー所属)が、それぞれファミリー2kmと10km・フルマラソンの部に参加されランナーを励ましながら完走、楽しいスピーチもあり大いに大会を盛り上げました。

ニッケグループは、1990年開催の第1回大会から特別協賛企業として本大会運営に協力しており、ニッケ発祥の地である加古川市の市民の健康増進、スポーツ振興に寄与することで社会貢献になりうるとの考えから、継続して協賛を行っています。

社会貢献活動

第12回「工房からの風」を開催

秋晴れの中、2014年10月18日(土)～19日(日)の2日間、ニッケコルトンプラザ(千葉県市川市)では、「工房からの風」を開催しました。本イベントは今年で12回目となる屋外工芸展で、遠方から足を運んでくださるお客様も多数いらっしゃり、多くの方に愛されています。

会場には全国から60名を超える若手工芸作家が集まり、作り手である作家の思いが込められた陶磁器やガラス、刺繍、織物、木製品など、日々の生活の中に彩りを与えてくれる工芸品が並びました。

ニッケコルトンプラザは、それぞれの出展作家たちの個性がより輝くよう、準備段階からイベント当日まで支援をして

います。また、“作り手”である作家と“使い手”であるお客様の楽しい交流を促進するべく、以前出展された作家たちに“伝え手”として運営スタッフに加わってもらっています。多くのお客様が毎年秋に開催される「工房からの風」を心待ちにし、新たな作家たちとの出会いに感動してくださることは、我々主催者の喜びでもあります。

「工房からの風」は、毎年楽しみにご来場いただいているお客様と、全国より出展する多様な作家、出展経験のあるスタッフによって支えられています。また、本イベントはニッケの企業文化活動のひとつでもあり、(公社)企業メセナ協議会の「This is MECENAT2014」に認定されました。



第8回「ピュアハートイラスト大賞」を開催

ニッケグループでは、2014年7月1日～9月12日まで、「ニッケピュアハートイラスト大賞」を実施しました。8回目となる今回は、【ツキネコのスタンプインク】と【こどものかおのスニップスタンプ】を使って、ニッケグループのマスコットである『「う～るん」のお友達を描こう!』をテーマに、年齢の枠を設けずに自由な発想で描いたイラストを募集しました。応募総数1,010通の中から審査委員長の(有)こどものかお顧問中村久子氏の立ち会いのもと、厳正なる審査を行い、大賞1名・優秀賞5名・佳作10名・入選34名の合計50名の受賞者が決定しました。

大賞・優秀賞・佳作の16作品を10月18日～19日に開催されたイベント「第8回スタンプカーニバル」のツキネコブースに展示しました。また、大賞・優秀賞受賞者6名を対象に10月25日、綿業会館(大阪市中央区)にて表彰式を実施しました。受賞者3名、ニッケ関係者7名が参加し、会食や綿業会館の見学を含めた表彰式を楽しみました。

ニッケグループでは、社会に貢献する企業としての使命と責任を果たすため、文化支援事業を行っており、その取り組みの一環としてこの企画に取り組んでいます。たくさんのご応募ありがとうございました。



綿業会館にて表彰式を実施



左から優秀賞の岡田紅咲さん、相原一子さん、松下幸子さん

ニッケグループ各社の取り組み ニッケ(日本毛織株式会社)

本社

「ゴミ排出量低減」「資源節約・リサイクル」をビル全体で推進しました。推進方法は、①ゴミの分別回収②ゴミ箱の減数③分別案内ポスター掲示(食堂・各職場)です。産業廃棄物や資源に分別して、トータルでゴミ排出量の削減につながりました。一般ゴミ排出量は前年度比60%減、ゴミ排出量総合計は、前年度比12%削減できました。



食堂と掲示物

神戸本店

夏の節電対策として、照明を間引くほか、空調温度の28℃徹底、省エネ型自動販売機への切り替えなど、最大電力を抑制しました。



エコキャップ、プルタブの回収

また、社会貢献として、エコキャップやプルタブの回収を継続しています。

東京支社

クールビズ(設定温度28℃)とウォームビズ(設定温度20℃)の徹底、卓上サーキュレーター3台と床置タワーファン2台の導入による室温むらの解消、休憩時間の消灯の徹底などにより、2014年度の電力使用量が2013年度比で90.9%となりました。3年連続して前年度比減少を達成しています。

北海道営業所

夏場には窓を開放しエアコンを極力控え、蛍光灯の間引きを実施したり、休憩時間や業務時間外には最低限の照明でまかなうことで、節電しています。

また、無駄なコピーを避けペーパーレスに取り組み、ゴミの分別回収にも取り組んでいます。

仙台営業所

2014年度も継続して節電を中心に環境活動の推進を図りました。

窓を開放して夏期のエアコンの使用を控えたほか、休憩時間の消灯を徹底しました。

またペーパーレスの推進や、コピー用紙の裏面利用、ゴミの分別にも継続して取り組んでいます。



照明の間引き

名古屋営業所

空調設定温度の管理、不要時消灯などの節電対策を継続的に実施しました。

またゴミの分別とリサイクル、保管書類の電子化によるペーパーレス推進、コピー用紙の再生紙や裏面利用など、資源保全に取り組みました。

広島営業所

休憩時間中の消灯、蛍光灯の間引き、空調設定温度管理を徹底して、省エネ対策を継続しています。

ゴミは分別ボックスによる回収、コピー用紙の再生紙利用、無駄なコピーの削減を継続徹底に取り組んでいます。

九州営業所

空調設定温度の徹底管理、蛍光灯の間引き点灯、不要照明の消灯など省エネルギーに取り組んでいます。

また、ビジュアルキャビネットによるペーパーレス化の推進により、事務所の保管ファイルが減少し空きスペースが生まれました。

このほかにコピー用紙の裏面利用、ゴミの分別を徹底し、資源保全に努めています。



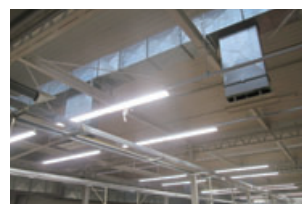
空きキャビネット

印南工場

【ユニフォーム素材・カーベットの製造】

ISO14001認証取得/2000年11月(登録番号 JMAQA-E156)

印南工場には24時間連続操業の製織工程があり、機台上部の照度を保つため292台の蛍光灯を設置していました。照明電力を削減するため全台、最新の高効率LED照明に更新した結果、約6,900kWh/月(約50%)の電力を削減することが



最新高効率LED照明

一宮事業所

【メンズ・レディースファッション素材を中心に製造】

ISO14001認証取得/2007年12月(登録番号 JMAQA-E724)

一宮事業所の食堂新設に伴い、食堂、休憩所、仮眠室、会議室の照明をLEDにしました。食堂内には、蛍光灯とスポットライトを設置し使用人数によって使い分けできるように計画しました。

また、交代番者専用の食堂にもLED照明を設置し空調、照明の電力使用削減に努めています。



食堂のLED照明

岐阜工場

【毛糸の製造】

ISO14001認証取得/2001年10月(登録番号 JMAQA-E234)

岐阜工場では、廃棄物のリサイクル率の向上のため、廃棄物処理方法の見直しを実施し、廃棄処理していた廃棄物を指定サイズに切断することで、廃棄からリサイクルへの転換が可能となりました。結果として年間累計リサイクル率が前年度94.3%から99.0%へ向上しました。



ゴミ処理方法の変更

ニッケグループ各社の取り組み ニッケ(日本毛織株式会社) グループ会社

ニッケコルトンプラザ

[ショッピングセンター]

2014年度は、空調調和機(エアハンドリングユニット:AHU)を1台、熱源機(吸収式冷温水機)を1台更新しました。吸収式冷温水機は、高効率冷温水機への更新に加え、二次ポンプに省エネシステムを導入しました。この取り組みにより、空調機器の電気+ガスの一次エネルギー換算で23.9%削減できました。

また、共用通路・島店舗・外灯・1階駐車場の照明器具633台をLED照明へ変更しました。



熱源機の更新

ニッケパークタウン

[ショッピングセンター]

空調送風機へのインバータ取り付けを昨年度で完了し、今年度は周波数を30Hzに下げて運転しています。さらに3階・屋上駐車場の照明と誘導灯をLEDに更新しました。これらによりショッピングセンター全体の電力使用量は5%低減しています。

また、本社ビル屋上緑化のスナゴケを3階駐車場に移設し、殺風景なコンクリートの一画に緑が映えています。



駐車場の照明をLED化

株式会社ナカヒロ

[衣料繊維製品および繊維資材製品の販売]

ISO14001認証取得/2002年6月(登録番号 E465)

ニッケ大阪ビルの「地球環境委員会」に継続して参画し、社内のゴミの一般ゴミ・廃プラスチック・資源化可能な紙への分別を促進し、結果社内のゴミ箱を減らすことができました。社員一人ひとりがゴミの分別意識を持つことで、ゴミ自体の減量にもなっています。また、エコキャップ回収運動にも継続して取り組んでいます。

2014年度、(株)ナカヒロは120周年を迎え、女性社員のユニフォームを冬服・夏服とも新しくしました。これに伴い、旧ユニフォームを回収して、サーマルリサイクルシステムにてリサイクル処理を行いました。



ゴミの分別回収



各拠点・各社が
工夫をこらして
環境保全に
取り組んでいます!

アカツキ商事株式会社

[衣料繊維製品の販売]

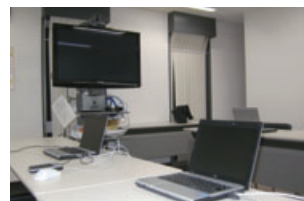
ISO14001認証取得/2001年9月(登録番号 JSAE419)

2014年度の環境保全活動は継続してエコ繊維商品の販売促進、ユニフォーム製品の回収、省エネ、リサイクル、廃棄物削減、ペーパーレス化による省資源を推進し取り組みました。

電気使用量については、対前年度比で4.7%削減できました。

また、モバイル機器の導入で会議資料等のペーパーレスも定着しています。

2015年度は、ニッケグループ4社での広域認定制度の認定取得を機にユニフォーム回収を積極的にPRするとともに、引き続き環境保全に取り組んでいきます。



会議資料のペーパーレス化

佐藤産業株式会社

[衣料繊維製品の製造・販売]

ISO14001認証取得/2001年11月(登録番号 JEO129E)

千代田区役所の斡旋で、クール・ネット東京による本社ビルの「省エネ診断」を受けました。技術専門員が実態調査を行い、「経営に優しいコスト削減」と「環境に優しいCO₂削減」に関する提案や技術的な助言を行う制度です。「省エネ診断報告書」の提案に基づき、2014年度は自動販売機2台を省エネタイプに更新しました。(消費電力は従来比40%減)。2015年度以降も空調機の更新など、提案に沿った省エネの施策を段階的に実施していく予定です。

南海ニッケヤーン株式会社

[梳毛糸、合繊糸、ウールトップの加工・販売]

2013年11月末にニッケ一宮事業所内の事務所へ移転し、一宮事業所と足並みを揃えての省エネ・省資源活動に取り組んでいます。具体的には、従来から取り組んでいた、社内用コピー用紙の裏面利用、昼食時間の事務所消灯に加え、ゴミの分別回収、夏期28°C・冬期20°Cの空調温度管理を徹底し、各人の環境への意識向上を図っています。

大成毛織株式会社

[織物の製造]

新工場は全体照明の設計でしたが、照度測定を行い蛍光灯の間引き・移動、照明スイッチ区分変更などの実施や空調運転の管理を徹底しました。原単位を前年度比2.6%削減できました。

ニッケテキスタイル株式会社

[織物の製造]

年間を通じて、不要時の消灯徹底と空調温度管理に努めました。

そのほかテキスタイル営業部門は、毎週月曜日の朝、全社員で快適環境づくりを目指し、事務所や事務所周りの掃除を継続しました。製造部門の中日事業部は、ゴミの排出削減と資源の無駄をなくす目的で、残糸の有効活用に取り組み環境対応に努めました。

尾州ウール株式会社

[毛糸の製造]

尾州ウール(木曾川工場)は2013年度に設置したデマンド制御装置に、2014年度は警報装置(パトライト)を追加設置しました。

コンプレッサの最大圧力の低減も合わせて実施し、全員参加で省エネを進めた結果、最大需要電力を3%削減することができました。

ニッケグループ各社の取り組み グループ会社

金屋ニット株式会社

【ニット製品の製造・販売】

2014年3月に省エネ型のエアコンに更新し、4月に事務所と工場内の主な照明にLEDを導入して消費電力削減に取り組みました。その結果、2014年度の電力使用量は前年度と比較して9%削減することができました。

また、不要時消灯の徹底や空調の温度管理、裁断くずの再生利用など、従来からの取り組みも継続して実施しています。

株式会社キューテック

【織物製品の縫製加工】

前年度に引き続き工場内の不要照明の消灯と空調温度管理、食堂の空調の省エネ型エアコンへの更新をした結果、前年度135kWのデマンドが124kWに低下しました。

また、2014年6月より工場内で発生したゴミの分別回収をさらに進め、再資源化可能なものはリサイクル業者に委託して資源保全に努め、焼却処分する廃棄物を50%削減しました。

艶金化学繊維株式会社

【染色整理加工】

「のこり染」を施した布地製品の製造販売を手掛けるクラキン事業部が、1% FOR THE PLANETのメンバーとなり、自然環境保護・回復のために売上の1%を利用することを宣言しました。



青島日毛織物有限公司(QNF)

【織物の製造加工】

節電対策として、照明本数の見直し、不要照明の消灯、冷暖房入り切りルールの設定を実施しました。

中国では電気使用時間帯によって電気料金が大幅に異なるため、料金の違いを従業員に説明し、節電に取り組みました。

また節電ポスターを掲示し従業員全員に意識してもらうよう喚起しました。



節電啓蒙ポスター

江陰日毛紡績有限公司(JNS)

【毛糸の製造・販売】

2013年度より染色排水の処理設備をJNS染色工場横に併設し、中国国家基準に則り基準を満たした排水を汚水処理場に放流しています。

2015年度から規制値はさらに厳しくなりますので、それに向けてソフト面の改良に取り組んでいます。



汚水処理設備を活用

ニッケポートフィリップスカーリング(NPS) 【原料加工】

羊毛洗毛工程で羊毛から除去された土砂・植物質を、オーストラリアの農場に還元しています。

農場では、土砂・植物質を利用して作物に適した土壌とし、小麦・キャノーラの栽培や、羊牧を行っています。



農場の豊かな土壌で開花したキャノーラ栽培

日毛(上海)管理有限公司(SNM)

【中国グループ会社向けのコンサルタント業務、資金融資、新規事業開発支援】

2014年度も、会議資料のペーパーレス化、コピー用紙の裏面利用、使用可能な備品の再利用などにより、資源保護に取り組みました。

また、事務所・会議室の禁煙を継続実施するとともに、PM2.5による大気汚染やインフルエンザ対策として、有効な空気清浄機の設置と、ハンドソープの購入をし、社員の健康管理に役立てています。



空気清浄機とハンドソープ設置

南海ニッケ・マレーシア(NNM)

【毛糸の製造】

Oeco-Tex Standard 100認証取得/2010年4月(登録番号 KLYO 068111)

2014年度は美化運動に重点的に取り組みました。生産現場では運搬車置場や部品置場を整理し、スペースを少なくすることで、電力・空調など無駄なエネルギー消費を抑えています。

また食堂の床を改修し衛生活動にも力を入れています。

今後もこの活動は継続します。 食堂の床を改修



南海ニッケ・トレンガヌ(NNT)

【ウールトップの製造】

2013年度に導入した、生物排水処理装置の運用を改善することで、COD(化学的酸素要求量)を85%低減することができました。

また、工場再編工事の際、日本からの設備輸送の梱包に使用された木材は、廃棄物とせず、再利用することで、約4トンの廃棄物減量を実現できました。

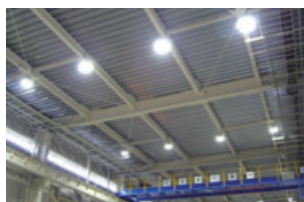
ニッケグループ各社の取り組み グループ会社

株式会社ニッケ機械製作所 【機械設計・製造・販売】

ISO14001認証取得 / 2004年11月(登録番号 3030786)

2013年8月、印南工場内の新建屋(FA設計棟・工場棟・倉庫・切断場)に移転したことにより旧建屋に比べより細かい電力使用量の把握が可能になりました。

また、移転後にLED照明の採用やエアコン効率の高い設備を設置したことにより電力使用量は前年度比(1月～6月の期間・作業時間も考慮)で約48%の低減ができました。

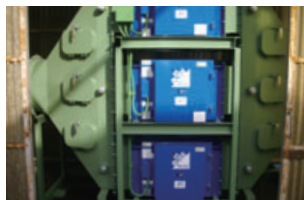


LED照明の採用

アンビック株式会社 【繊維資材製品の製造・販売】

ISO14001認証取得 / 2001年11月(登録番号 JQA-EM1898)

ヒートセット加工機では繊維油剤の蒸発温度を上まわる温度で生産を行うため、煙(オイルミスト)が発生していました。煙対策のため減煙装置(オイルミストコレクター)を導入し、油分を含んだ煙を除去(ろ過)した後に工場外へ排気することで近隣地域へ環境配慮することができました。



減煙装置

日本フェルト工業株式会社 【繊維資材製品の加工】

特殊ミシンなど各種ミシンでの縫製加工を行う専用ルームを設置し、室内照明を全面LED化としました。

また、繊細な作業が要求される手元には部分的にLEDスポット照明を導入し、電力削減と作業者の視覚負担軽減も図ることができました。



LEDスポット照明の導入

江陰安碧克特種紡織品有限公司(JAF) 【繊維資材製品の製造加工】

照明灯の取り替えを推進しました。本工場内の照明灯を省エネタイプへ37個取り替え(従来品より80%削減)しました。残りについても随時取り替えを予定しています。



照明灯を省エネタイプへ取り替え

安碧克(上海)貿易有限公司 【繊維資材製品の販売】

事務所内ではコピー用紙の裏面利用、不要照明の消灯など環境保全に取り組んでいます。

また、中国大気汚染対応として、中国現地生産品にてPM2.5対策品を新規開発中です。今後も中国国内の環境保全に貢献していきます。



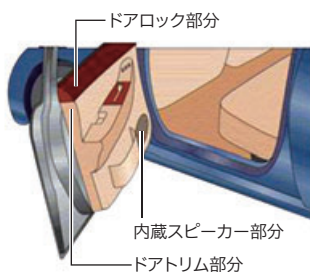
環境保全への取り組み

安碧克(香港)有限公司(HAM) 【繊維資材製品の販売】

アンビック(株)製造の環境基準に対応したフェルト・不織布を中国や東南アジアへ販売しています。

特に、電機電子機器のRoHS指令や、自動車業界のVOC規制にも適合した「ヒメロン」シリーズは、2014年度は、従来品に加え、難燃仕様品や厚みのラインナップも増やし、販売の強化を図っています。

ヒメロンの使用箇所(車のドア)



株式会社ゴーセン 【テニス・バドミントンラケット、釣糸、産業資材の製造・販売】

ISO14001認証取得 / 2005年4月(登録番号 JQA-EM4701)

天神工場周辺の区画整理事業に伴う工場レイアウト変更の際、従業員駐車場をグリーンパーキング化しました。工場緑地が確保され、CO₂の削減、夏期の温度上昇抑制の効果も期待できます。



従業員駐車場の緑化

ホクレン株式会社 【繊維資材の染色加工】

節電対策として、ワインダー室の蛍光灯51灯をすべてLED電灯に変更しました。従業員一人ひとりのエコ意識を高めるため、昼食時間の消灯およびトイレ不使用時の消灯を徹底しています。事務所では、書類のペーパーレス化を推進し、コピー用紙の裏面利用とともに、パソコンの有効活用で、紙使用量の削減を継続的に進めています。

また、年2回の松本工業団地の一斉清掃に参加し、地域の美化活動を推進しています。

上海高織制紐有限公司 【繊維資材製品の製造】

ISO14001認証取得 / 2004年3月(登録番号 01 104 031654)

コピー機横に、裏面利用可能な用紙収集箱を設置することで、コピー用紙の再利用が定着してきました。

工場内の段ボールなどの資源の有効活用、休憩中の消灯など環境保全への取り組みを継続していきます。



用紙収集箱の設置

ゴーセン・タイランド 【自動車用繊維資材の販売】

ゴーセン・タイランドは、Amata工場設立に伴い、事務所を統合することにより、エネルギーを削減します。

従来からの不要照明の消灯や昼食時間の空調オフは継続して徹底しています。生産品に極力、段ボールパッキンは使用せず通箱の採用を検討しています。



Amata工場の設立

ニッケグループ各社の取り組み グループ会社

ニッケ不動産株式会社 【住宅などの建設・販売、不動産管理事業】

2012年度より実施しているブルスイッチによる不要時消灯を継続推進し、節電に努めています。

また、2014年度より複合機のFAX保存機能を活用し、不要なFAXの印刷を防止し、紙使用量の削減に努めました。



ブルスイッチによる不要時消灯

株式会社ニッケレジャーサービス 【ゴルフ施設運営・管理】

甚目寺センターでは、1,000Wタイプの投光器から最新型の700Wの投光器へ一部交換し消費電力を上げずに照度アップすることに成功しました。今後、投光器は、LEDタイプに変更する方向で検討しています。

弥富コースでは、ミストシステムを利用し、夏季期間のエアコンによる消費電力の低減に努めました。

また、冬期(11月~3月)のナイター営業の短縮で使用電力量を大きく削減しています。



最新型投光器の導入

株式会社ニッケインドアテニス 【テニス施設運営・管理】

「使用電力監視システム」の新型機を東海地区4校に試験的に導入しました。同機は最大デマンドに加え、30分ごとの電気使用量の目標を設定、監視することができます。

また、監視機は事務所内だけでなくフロントエリアにも設置されたため、現場での監視が可能になりました。期待通りの結果が得られれば、関東地区4校にも導入していく予定です。



使用電力監視システム新型機を導入

株式会社ニッケ・ケアサービス 【介護事業】

ふれあいセンター犬山では、夏場にゴーヤを栽培し「緑のカーテン」を作り、冷房による電力消費を抑える取り組みを行いました。

また、冷房の設定温度を調整し、室内の冷えすぎ防止に努めました。



ゴーヤで緑のカーテン

ニッケ商事株式会社 【毛布・寝装用品の製造・販売、手編糸・スーツの販売】

ゴミ箱を削減し、ゴミの分別やゴミの排出量の抑制に努めました。

また、引き続き、待機電力の抑制、不要箇所の消灯、エレベーターの使用制限による省エネルギーに努めるとともに、紙類や衣類のリサイクル活動に取り組みました。

双洋貿易株式会社 【馬具・乗馬用品の製造・販売】

前年度より引き続き夏期のスーパークールビズ実施、ゴミ分別の徹底、再生トナー使用や裏紙の再利用、不要照明の消灯を実施しています。

また、2014年度は社用車を2台増車する際、低燃費車とハイブリッド車を採用し、環境に配慮しました。

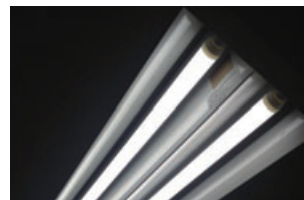
株式会社ニッケ物流 【倉庫管理・運送】

2014年度は「グリーン経営認証」取得から2年が経過し厳正な更新審査を受け、環境保全の取り組みと未来を見据えた環境物流の推進の強化に社員一丸となり取り組んでいます。

さらにグリーン経営認証リーダー研修会へ参加し、「グリーン経営環境活動報告書」の作成に取り組んでいます。

株式会社友栄 【100円ショップ向け卸売】

事務所内の室温管理の徹底、コピー用紙の裏面利用およびトナーカートリッジのリサイクル品の使用を継続して行いました。使用頻度の多い蛍光灯のLED化、商用車の削減と1台をエコカーに変更しました。



蛍光灯のLED化

株式会社ジーシーシー 【携帯電話販売】

コピー用紙の削減のため、FAXをメールで送信するようにしました。

また、会議で大量に印刷していた資料を、タブレットを使用し、ペーパーレス化しました。今後は、お客様からいただく申込書へのサインも、電子化する予定です。

ニッケアウデオSAD株式会社 【菓子小売・キッズランド・TSUTAYA・飲食カラオケ施設運営・管理】

サーティワンアイスクリームでは新店舗の照明器具をLED化、キッズランドやアミューズメント店舗、TSUTAYA店舗では照明器具の間引きやエアコンの温度調整、飲食店舗もランチタイム終了後の節電など効率化を図りました。



照明器具のLED化

株式会社ツキネコ 【スタンプ台等の企画・開発・製造・販売】

エアコンによる真夏と真冬のデマンド管理強化と蛍光灯の間引きや不要箇所の消灯を徹底し電気使用量の低減を継続しています。電力使用量は、前年度比98.3%となりました。

また、部分的ではありますがLED照明を導入し、省エネや職場環境の改善を図りました。

自動販売機(飲料水)についても、機種を変更しピークシフト機能付きとしたことで日中の消費電力は95%削減できました。



LED照明の導入

環境報告ガイドライン対照表

● 環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)との対照表

項目	環境データ集 2015 該当ページ
1. 環境報告の基本的事項	
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 報告対象組織の範囲・対象期間	P.2
(2) 対象範囲の補足率と対象期間の差異	P.2
(3) 報告方針	P.2
(4) 公表媒体の方針等	P.2
2. 経営責任者の緒言	P.3
3. 環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	P.1
(2) KPIの時系列一覧	P.9
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	P.8
4. マテリアルバランス	P.9
2. 環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況	
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1) 環境配慮の方針	P.5
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	P.5
2. 組織体制及びガバナンスの状況	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	P.5
(2) 環境リスクマネジメント体制	P.6
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	P.7
3. ステークホルダーへの対応の状況	
(1) ステークホルダーへの対応	P.7
(2) 環境に関する社会貢献活動等	P.7, P.22-26
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	—
(2) グリーン購入・調達	P.18
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	P.14-16
(4) 環境関連の新技术・研究開発	P.14-16
(5) 環境に配慮した輸送	P.10
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発／投資等	P.7
(7) 環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル	P.16-17

項目	環境データ集 2015 該当ページ
3. 事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況	
1. 資源・エネルギーの投入状況	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	P.9, P.10
(2) 総物質投入量及びその低減対策	P.9, P.11
(3) 水資源投入量及びその低減対策	P.9, P.11
2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)	P.9, P.11
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	P.9
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	P.9, P.10
(3) 総排水量及びその低減対策	P.9, P.13
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	P.9, P.13
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	P.9, P.12
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	P.9, P.11
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	P.6, P.12
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	P.7
4. 環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況	
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	
(1) 事業者における経済的側面の状況	P.6
(2) 社会における経済的側面の状況	—
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	
(組織統治等)	P.4
(人権)	—
(労働慣行)	—
(消費者保護・製品安全)	—
(地域・社会)	P.20-21
(その他)	—
5. その他の記載事項等	
1. 後発事象等	
(1) 後発事象	—
(2) 臨時的事象	—
2. 環境情報の第三者審査等	—

表紙イラスト

「ニッケ ピュアハート イラスト大賞」第8回(2014年)

文化支援事業として、「ニッケ ピュアハート イラスト大賞」を実施しています。「う～るんのお友達を描こう!」をテーマに、素晴らしい作品が多数寄せられました。

大賞

① 加原 優美さん(中学生以上・福岡県)

優秀賞

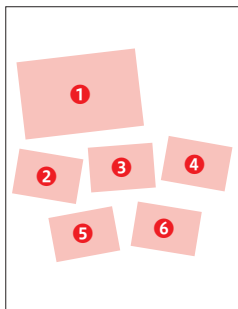
② 岡田 紅咲さん(中学生以上・埼玉県)

③ 松下 幸子さん(中学生以上・千葉県)

④ 浅香 忍さん(中学生以上・兵庫県)

⑤ 相原 一子さん(中学生以上・神奈川県)

⑥ 石見 ひろみさん(中学生以上・兵庫県)



〒541-0048 大阪市中央区瓦町三丁目3番10号
Tel.06-6205-6600 Fax.06-6205-6684

<http://www.nikke.co.jp>

ニッケグループ「環境データ集2015」アンケートシート

皆様のご意見、ご感想をお聞かせください

ニッケ 研究開発センター 環境・知財管理室 宛 **FAX. 079-431-2070**

「環境データ集2015」をお読みいただきありがとうございました。ニッケグループでは、環境保全に積極的に取り組むとともに、皆様方とのコミュニケーションをより一層深めながら、環境報告を継続的に改善し、充実させていきたいと考えております。お手数ですが、アンケートにご記入の上、上記の宛先までFAXでご送付くださいますようお願いいたします。

Q1▶ 本データ集をお読みいただき、どのようにお感じになりましたか？

- | | | | | | |
|---------------|-----------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1) わかりやすさについて | <input type="checkbox"/> 大変わかりやすい | <input type="checkbox"/> わかりやすい | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> わかりにくい | <input type="checkbox"/> 大変わかりにくい |
| 2) 内容について | <input type="checkbox"/> 大変充実している | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 物足りない | <input type="checkbox"/> 大変物足りない |
| 3) 情報量について | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 多い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 少ない | <input type="checkbox"/> 少なすぎる |
| 4) デザインについて | <input type="checkbox"/> 大変良い | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い | <input type="checkbox"/> 大変悪い |

Q2▶ 特に興味を持たれた項目は何でしょうか？(複数回答可)

- | | | |
|--|---|---|
| <input type="checkbox"/> ニッケグループの概要(P.1) | <input type="checkbox"/> 編集方針(P.2) | <input type="checkbox"/> トップメッセージ(P.3) |
| <input type="checkbox"/> コーポレート・ガバナンス(P.4) | <input type="checkbox"/> コンプライアンス・リスク管理(P.4) | <input type="checkbox"/> 環境に関する基本姿勢(P.5) |
| <input type="checkbox"/> 環境マネジメント(P.5-7) | <input type="checkbox"/> 環境保全中期計画(P.8) | <input type="checkbox"/> 環境負荷の全体像(P.9) |
| <input type="checkbox"/> 地球温暖化防止の取り組み(P.10) | <input type="checkbox"/> 省資源・リサイクルの取り組み(P.11) | <input type="checkbox"/> 化学物質の削減と管理(P.12) |
| <input type="checkbox"/> 大気や水などの汚染防止(P.13) | <input type="checkbox"/> 環境に配慮した商品(P.14-17) | <input type="checkbox"/> グリーン購入の取り組み(P.18) |
| <input type="checkbox"/> オフィスでの取り組み(P.18) | <input type="checkbox"/> ショッピングセンター運営での取り組み(P.19) | <input type="checkbox"/> 社会・地域への貢献活動(P.20-21) |
| <input type="checkbox"/> ニッケグループ各社の取り組み(P.22-26) | | |

Q3▶ 本データ集でお知りになった環境保全活動に対して、どのように評価されましたか？

- 大変評価できる 評価できる 普通 評価できない 全く評価できない

Q4▶ 本データ集で不足している点や改善すべき点がございましたらお聞かせください。

Q5▶ 今後のニッケグループの取り組みについて、ご意見や期待される点をお聞かせください。

Q6▶ 本データ集をどのような立場でお読みになりましたか？

- お客様 お取引関係者 投資家・株主 政府・行政関係 研究・教育関係 環境NPO・NGO 報道関係
 企業・団体の環境ご担当 学生 ニッケグループ従業員・家族 その他()

ご協力ありがとうございました。差し支えない範囲で、以下にもご記入ください。

お名前(ふりがな)	性別 男 ・ 女	年齢 歳
ご住所(お勤め先またはご自宅) 〒	ご所属(お勤め先・学校名など)	
ご連絡先(電話番号、FAX番号、E-mailアドレスなど)	所属部署・役職など	

■情報の取り扱いについて

アンケート内容は、今後の当社グループの環境への取り組みや、次回のデータ集作成の参考とさせていただきます。ご記入いただいたアンケート内容および個人情報は適切に管理し、この目的以外の利用や第三者への提供はいたしません。また、個人を特定できる形で開示することもございません。